

地方共助社会づくり懇談会 in 徳島 議事録

内閣府政策統括官（経済社会システム担当）

地方共助社会づくり懇談会 in 徳島
議事次第

日 時：平成27年12月20日（日）13:30～16:30

場 所：ろうきんホール

- 1 開会
- 2 講演
「地域の元気をボランティアでつくる！」
- 3 パネルディスカッション
「みんなが支えるまち・とくしま」
- 4 共助社会づくり懇談会報告書説明
「共助社会づくりの推進について」
- 5 NPO支援施策の説明
「NPOの自立に向けて」
- 6 閉会

○司会 それでは、皆様、大変長らくお待たせいたしました。

ただいまより「地方共助社会づくり in 徳島 みんなが支えるまち『とくしま』シンポジウム～みんなが元気・輝くとくしまのために～」の開会式を行います。

申し遅れましたが、私、本日の司会進行を務めさせていただきます、泉美穂と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。（拍手）ありがとうございます。

それでは、開会に当たりまして、主催者を代表いたしまして、高田浩徳島県県民環境部長より御挨拶を申し上げます。よろしく願いいたします。

○高田部長 ただいま御紹介にあずかりました、県民環境部長の高田でございます。

「みんなが支えるまち・とくしまシンポジウム」の開催に当たり、主催者を代表いたしまして、挨拶をさせていただきます。

さて、少子高齢化や人口減少の進行など、地域社会を取り巻く社会、経済環境が厳しさを増している中、本県が活力にあふれ、魅力ある地域であり続けるためには、自分のことは自分で行うという自助の精神に、行政とNPOの企業など、多様な主体がそれぞれの特性を生かし、連携・協力をしながら、地域の課題を解決する共助の精神で活動することが、大変重要となってきております。

特に今日、地域に密着し、地域の特性を生かすことにより、地域の課題解決に柔軟かつスピーディーに対応できるNPO活動には、特色あるまちづくり、賑わいの創出など、地方創生の担い手として、大きな期待が寄せられておるところでございます。

古くから、お接待やおもてなしの文化が生きる本県では、ボランティアセンターの前身である善意銀行の誕生は小松島市、アドプト・プログラムの発祥は神山町などに代表されるように、まさにボランティア先進県として、全国に先駆けた取組を生み出してきております。このボランティア活動、ひいては社会貢献活動を組織的に、発展的に運営するためには、法人化されたものがNPO法人でございます。

本県のNPO法人は、現在約340団体で、ここ数年で飛躍的に伸びてきております。人口10万人当たりでは、全国8位、上位にランクインされているところでございます。一方、活動資金の不足や、人材確保など、課題を抱える法人の割合が高く、小規模な団体が多くを占めている現状でございます。

こうした中、本日は、内閣府に共催をいただき、本シンポジウムを開催いたしました。こころ元気研究所所長鎌田敏氏をお招きしての御講演や、認定NPO法人日本NPOセンター常務理事で内閣府共助社会づくり懇談会委員でもあります、田尻佳史氏のコーディネートによる県内の各方面で活躍しているNPOの皆様とのパネルディスカッション、また、内閣府参事官付政策企画専門職福田紘一郎様が、共助社会づくりの推進について、お話をいただくこととなっております。

県といたしましては、今後ともNPO活動にさらなる促進に向けて、県民の皆様がいつでも気軽に、そして、誰にでも社会貢献活動に参加できますよう、その環境づくりに積極的に取り組んでまいりますので、皆様には、なお一層の御支援、御協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

結びといたしまして、本日、御参加いただきました皆様には、元気溢れる楽しい講演、また、パネルディスカッションでのNPO活動の紹介や、全国的な活動状況などを通して、本日のテーマである「～みんなが元気・輝くとくしまのために～」社会貢献活動への参加支援を始めていただくきっかけとなりますよう、心から御祈念を申し上げます、開会に当たりましての私の御挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。(拍手)

○司会 それでは、これより講演の方に移らせていただきます。

準備がありますので、そのままもう少しだけお待ちくださいますよう、お願いいたします。

それでは、お待たせをいたしました。ただいまより「地方共助社会づくり in 徳島みんなが支えるまちとくしまシンポジウム」の講演を始めさせていただきます。

御講演をいただきますのは、今、御登壇をいただいております、こころ元気研究所所長でいらっしゃいます鎌田敏様でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

テーマは「地方の元気をボランティアでつくる！」ということで、御講演をいただきます。

鎌田様は、産業カウンセラー、日本メンタルヘルス協会基礎カウンセラー、心理相談員、認定コーチなどの資格をお持ちでいらっしゃり、こころ元気配達人として、笑顔と元気をお届けすべく、全国各地へ講演、研修活動を行っていらっしゃいます。

それでは、その元気、こころ元気配達人の鎌田敏様の御講演を楽しく聞かせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。（拍手）

○鎌田氏 それでは、皆さん改めまして、こんにちは。

今、御紹介いただきました、鎌田敏と申します。今日はよろしくお願ひします。

また、手話の皆さん、あるいは要約筆記の皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

今から3時ころまで、私は講演をさせていただくのですけれども、何か皆さん食べてられましたね。これは胃の中で消化、吸収、色んな活動が始まっています。それには物すごいエネルギーがいるわけなのですけれども、今日のこの講演、この後、ディスカッションとか、どちらかというを使う場所は、やはりこの脳のあたり、この辺りをよく使うのですけれども、ここにエネルギーが必要なのです。

こちらにエネルギーを取り戻す意味で、最近流行りの脳のトレーニング、脳トレから今日はいきたいと思ひます。いつでもどこでも誰でもできる、あるいは家族や地域に広めることもできる、今日は1人じゃんけんというのをやってみたいと思ひます。福祉系のボランティアの方などは、よく御存じかもしれませんが、やってみたいと思ひます。

普通じゃんけんというと、相手とじゃんけんぽんと勝負するのですけれども、1人じゃんけんですから、今日のルールは、自分の右手、皆さんの右手が自分の左手に勝つということで、今からやってみます。見ていてください。皆さんから言うと、逆の手ですけれども、私の右手はこちらです。

こんな感じでじゃんけんぽん。こういうことです。皆さんから見たらこうです。もう一回行きます。じゃんけんぽん。こういうことですね。よろしいでしょうか。おわかりですか。

それでは、両手を上げていただきまして、これで今日お集まりの皆さんの脳の若さが一目瞭然でございます。頑張ってくださいまして、最初からこんなのは止めてくださいね。最初はこの状況からいきましょう。私を見ていたら、惑わされますから。私の右手は、皆さんから見たら左に見えますから、気を付けてください。

いきます。せーの、じゃんけんぽん。良いですね。ゆっくり入れかえている方もいらっしゃいますし、良いのです。勝てば良いのです。気づいて勝つ、これが大事です。もう一

回いきましょう。皆さん大体できておられます。

いきます。じゃんけんぽん。良いですね。ぱっと入れかえて間違えている方もいらっしゃいますけれども、大丈夫です。大体皆さんできておられます。

これで喜んでいたら駄目なのです。これを何とか頑張ったらいける。最初から、右手チョキ出して、左でパー出そうとか、頭の中で決めておけば、なんとか行けます。ここからが本当の脳のトレーニングでして、これを3回続けて今日はやりたいと思います。3回続けて皆さんの右手が、皆さんの左手に勝つということで、私がやってみますから、見ていてください。私も久しぶりにやるので、うまいこといけるかどうか、私の右手が、左手に勝ちます。せーの、じゃんけんぽん、ぽん、ぽん。（拍手）

そうなのです。ここは普通拍手をいただくところなのです。ありがとうございます。私も今、ほっとしましたけれども、いきなりこんなに早くは無理です。こんなに早くは無理ですけれども、できるだけ早いスピードで頑張っていたらと思います。よろしいでしょうか。

それでは、両手を挙げていただきまして、こういうことを言うと、知恵のある方がいらっしゃるのです。3回続けて勝てばいいのだと。わかったと言って、じゃんけんぽん、ぽん、ぽんと、勝っているのではないかと行って、理屈では勝っているのですけれども、今日はずるということで、グー、チョキ、パー、どんどん入れかえてチャレンジしていただけたらと思います。

それでは、両手を挙げていただきまして、頑張ってください。右手が左手にいきます。せーの、じゃんけんぽん、ぽん、ぽん。良いです。良い感じですよ。ぱっと見たら、かにさんみたいなダブルピース、少し幸せな方もいましたけれども、御心配なく。

私もそうなのですが、いきなりこんな速いのはできないのですが、ぽんぽんやっていると、慣れというものがありまして、だんだん速くなっていきます。編み物とかでもそうですけれども、目的意識を持って、指先を動かしていると、脳に良い刺激が行くわけです。脳細胞などは幾つになっても活性化されると言われているのです。ここだけの話、ぼけ防止によかったりします。

あと、こういう子供達などは物すごく喜んでやります。見てみて、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おじさん、おばさん見てと言って、私はこんなに速いと言って、コミュニケーションにすごく良いきっかけになるのです。これはできないからおもしろいのです。なかなかうまくいかないから。だから、すごくコミュニケーションのきっかけになりますので、ぜひ何か最初のアイスブレイクではないですが、何かコミュニケーションのきっかけに、こういうのはすぐできますので、今日はやりませんが、左手が右手にですとか、これも逆をやってみると難しいのです。でも、脳には右脳、左脳と右、左とありますので、どちらの脳にも刺激を送り込んでやるということで、ぜひこういうのを御自身の脳のリフレッシュ、あるいは奥の方とのコミュニケーションのきっかけなどにもしていただけたらと思います。

これで皆さんの脳に刺激が行き始めたということで、私は、実家が大阪の枚方というところなのです。私のお父さん、お母さんもおりますけれども、長いこと神戸におりまして、来年の17日になったら、もう21年目になりますけれども、阪神・淡路大震災に被災しまして、そこでそのまま10カ月ほどずっと色んな自分のできること、まだ若かったのですけれども、体を使って、肉体労働というか、色々活動をしていたのですが、そこから流れて行って、東京でとかで働いていたりするのです。

今日はどこから来たかという、実は岐阜県岐阜市の方からやってまいりました。親父が兵庫県、お袋も兵庫県なので、関西ばかりなのですけれども、岐阜に何もゆかりもなかったのですが、そんな私が岐阜県民になって18年になるのですけれども、済みません、私は何で今、岐阜に暮らしていると思いますか。（わかりません）。わからないですよ。正直なお答えありがとうございます。

そうなのです。これはすごく大切だと思うのです。わかりませんよね。なぜかと言うと、それはコミュニケーションをとっていませんね。私達は、相手のことをこの人こういう人ではないかとか、イメージしたりとか、することができますけれども、その中には思い込みとか、先入観とかがあるかもしれません。キャッチボールすることで、お互いのことを理解したり、共感したりですとか、あるいは色んな気づきとか、学びとか、刺激があったりするかもしれません。

今日、私は今からの時間、講演ですけれども、一方的に話すだけの時間ではなくて、皆さんともコミュニケーションをとりたいと思いますし、皆さん同士にもコミュニケーションをとっていただいて、お互いの交流にも繋がるようなそんな時間でもあったら良いと思っています。

変な質問してしまったので、ごめんなさい。本当はこれを語るだけで、本当は色んなドラマがありますので、今日の1時間半ぐらい終わってしまうのですけれども、3秒で短縮すると、惚れた女性が、好きになった女性が岐阜でして、これでも言う、彼はそういう理由で岐阜に暮らしているのだとわかってくるわけなのですけれども、要はコミュニケーションは双方向のやり取りで、すごく大切です。ですから、今日はそんな時間、私が一方的にしゃべるだけの時間ではなくて、そういう時間をぜひ入れていきたいと思うのです。主役は私ではなくて、皆さんでお願いします。

皆さんに考えてもらいたいことがあります。世の中に色んな色があります。この会場の中にも、皆さんのお洋服ですとか、先ほども全部見させていただきましたけれども、NPOさんの色んなボランティアの紹介がありますけれども、また見ていただけたらと思いますが、色んな色が使われていますけれども、皆さん、この色を見たら、私は元気が出るという色ですとか、あるいはこの色を見たら、私は落ち着くというような色ですとか、この色を見たら、鼻血が出てとまらないくらい興奮するとかでも結構でございます。これは何かお仕事ですとか、ボランティア活動をしているとき、あるいはプライベートな時間のときとかで、変わってくるかもしれませんけれども、どうでしょうか。せっかくですので、御

近所、お隣同士の方と、私はこの色見たら元気が出ますとか、私はこの色を見たら寝られませんとかでも、結構でございます。自由に話し合ってもしていただけたらと思います。どうぞ。こう言いながらも、私は準備します。

(色決めをする)

ちなみに、私は、ばりばりなタイガースファンなのですがけれども、なぜかオレンジなのです。アンチジャイアンツで、徳島県VS東京なのですがけれども、私もVSアンチ巨人なのですが、でも、なぜか元気が出る色はオレンジなのですけれども、皆さんいかがでしょうか。

それでは、せっかくですから、聞いていきたいと思えますけれども、済みません。今日はありがとうございます。佐々木様、何色が。(黄緑です)。黄緑、良いですね。新緑のような緑というか、生命力が溢れていて、何か生き生きとしていて、良いですね。

何色が好きですか。(黄色です)。黄色も良いですね。例えば車で吉野川とか、ずっと走っていて、菜の花畑があったり、時期が違いますけれども、夏場などはヒマワリなどが群生しているのを見ていても、これは気持ち良いです。ありがとうございます。

新開さんは、どうぞ。(アワブルー)。アワブルー。アワというのは、この徳島の阿波のブルーですね。(藍色のブルーです)。藍色ですね。いいですね。有名です。やはり落ち着きがあって良いです。ありがとうございます。

何色が良いですか。(黄色)。黄色。いいですね黄色。

何色が良いですか。(赤)。赤。燃える闘魂ですね。情熱の赤。

何色が良いですか。(オレンジ)。オレンジ。

何色が良いですか。(先程の藍色です)。落ち着きがあって良いですね。ありがとうございます。

何色が良いですか。(ピンク)。ピンク、待っていました。ピンクは温もりがあって良いですね。

何色が良いですか。(こんな色)。こんな色。もう指を指すのが一番楽で良いですね。ありがとうございます。

何色が良いですか。(ピンクと赤です)。ピンクと赤。ありがとうございます。

何色が良いですか。(紺)。紺は人気あります。

どうですか。(赤)。赤、ありがとうございます。

どうですか。(黄色と黒)。黄色と黒、いいですね。

どうですか。(空色)。空色、待っていました。青空、待っていました。今日もいい天気です。青空は爽やかで良いですね。ありがとうございます。

これはもちろん何色でも良いわけですから、それはそうです。人間、色んな価値観があるわけですから、もちろん私だって、価値観と言いましたけれども、元気な自分がいるかと思えば、そうではない自分もいるわけですし、几帳面な自分もいるかと思ったら、良い加減な自分もいますし、人に優しい自分もいるかと思ったら、人に冷たい自分もいたり、色んな自分がいると、そんなことを思うのです。時には私には関係がないと、他人事のような

自分もいるかと思ったら、自分には直接関係がなさそうに見えるのですけれども、何か気になって、自分事のように、自分に置きかえて、今日、ボランティアとかされている皆さんというのは、何か色んなことを自分事に置きかえてという方も多いのではなかろうかと思うのですけれども、私達の中には、色んな自分がある、そんなふうに思います。

そうすると、他者の中にも、色々な自分がいまして、そういう色んな価値観の交流はすごく素敵なことだと思います。だから、議論も大切なのですけれども、でも、そこには勝ち負けとかも入ってくるかもしれませんが、何か色んな価値観の交流、そういう考え方もあるのだとか、それは素敵だとか、そういうのって私は意識したことなかったけれども、おもしろそうだ、やってみようかなんていうような交流なども、今日、パネルディスカッションもありますけれども、あるいは色んな情報提供もあります。そんな時間に今日一日になったら、すごく素敵だと思いますし、色んなボランティアを実際にやられている皆さんも、それぞれの御活動以外の御活動の方なども、色々と触れ合って、価値観の交流の中で、そこからまた、お互い協力し合って、アイデアが出し合って、1足す1が3にも4にもなる相乗効果というか、そんなふうになって、ますますきらきら輝いていくというのは、素敵なことだと思います。

これからの時期は、うがいや手洗いは結構まめにされると思うのですけれども、私だったら、インフルエンザですとか、最近だったらノロウイルスとか、私達は生ものですから、感染するわけではないですか。うちもまだ小さいちびがいますけれども、ことしの夏に、あの手足口病とか、2回も感染しました。結核のような空気感染とかもあるわけなのですけれども、一方で、私達の心と言いましょうか、やる気、元気ですとか、気持ちとか、気分とか、モチベーションとか、何か色々言ったりしますけれども、心の部分も結構その場の空気に影響を受けることはありませんか。空気感染と言いましょうか。振り返ってみると、どうでしょうか。人がそこにいると、必ずその場の空気というのができあがります。もちろん家庭という場の空気であったり、それはもちろん地域の空気とか、職場の空気、色んなボランティアいく人だったら、その団体の空気であったりですとか、徳島県全体の空気があったり、業界の空気とか、この国全体の空気とか、色々あるかもしれません。

私達に共通していることは、先程お話しましたけれども、21年前も阪神・淡路大震災とか、でしたら、私がお話したとき、体験したときに、大学院を卒業する年で、就職する年だったのでけれども、同じ大学でも44人亡くなっているのですが、私と同じように就職が決まっていた人もいます。でも、働くこともできなかった、あるいはあのとき午前5時46分でしたから、子供達がたくさん亡くなったそうです。もちろんこの徳島もすごく揺れて、大変御苦労された方もたくさんおられると思いますけれども、たくさん子供達が亡くなっていて、彼らは何になりたかったかという、それは大人になりたかったのだと思うのです。別にいきなり彼らの人生まで背負おうとかいう重い話をしていてではなくて、私達大人の世界は、何十年と生きていたりですとか、あるいは働けなかった人達がいる。だけれども、私はそういう中で、毎日働いていたりですとか、あるいは活動したければ活

動ができるような、色々やりたくてもできなかった人達、東日本大震災の人もそうですし、私は今、岐阜に暮らしていると言いましたけれども、去年でしたら、長野と県境で御嶽山が噴火して、60人近い方が亡くなられたりとか、大人になりたくて、仕事がしたくても、こういうことがしたくても、できなかった人達がいる中に、毎日のように大人の世界を生きていて、働けていたりするとか、自分の考えで行動していたりできるというのは、毎日のことなので当たり前だという感じがするのですけれども、実は、ふと考えると、当たり前前の裏返しというのは、物すごくありがたいことなのではないかと思ったりします。

そういうことで捉えていくと、自分のこの人生に対する捉え方ですとか、町に対する関わり方とか、また違ってくるのかと思いますし、そんな私達に共通していることは、人生は一度きりなのです。二度ないわけではないですか。そんな我々が今という同じ時代をしかも同じ場所で、あるいは同じ団体で、一緒に同じ志ですとか、同じ地域ですとか、同じこの徳島県でとか、これは不思議な御縁だと思うのです。今日、こうやって皆が集まっているのも不思議な御縁かもしれません。どうせだったら、そんな御縁の中では、色々な色があるのですけれども、先程言っていた、青空のような爽やかなとか、黄色とか、オレンジとか、赤とかも元気が出たり、ピンクのように温もりがあったりですとか、何かそういう空気を一緒に作りたと思います。

例えば福祉関係の方もいらっしゃると思うのです。福祉のまちづくりとか、人に優しいまちづくりとか、あるいは私は昔から青年会議所さんとかも長年、奉仕活動とかずっとやっているので、関わりがあるのですが、経済人の方々なりの明るい豊かな社会に向けて、色々奉仕活動をされているのではないですか。例えばそういう色々なまちづくりとか、色々なものがありますね。色々なアプローチができると思うのですけれども、1つは、例えばより良い家庭とかもそうです。あるいはより良い職場づくりとかでもそうです。良い空気をつくらうではないか。空気づくりと捉えていくと、すごくシンプルで、わかりやすいのではないかとそんなふうに思っているのです。

というのが、空気というのは、私達一人一人がつくっているものです。私達一人一人の小さなことの積み重ねが、そういう空気をつくっているわけです。一人一人の気持ちの良い挨拶であったり、何かしてもらったらありがとうと感謝の言葉であったり、相手を思いやる心ですとか、支え合ったりして、助け合ったり、もちろんけんかすることもあります、人間ですから。それはそうなのですけれども、何か笑顔1つでぱっと変わったりします。あるいはともに喜ぶとか、一緒に何々するとか、今、色々なところで私は各地で、旅芸人な暮らしをしているので、要は色々な例えば企業さんにお邪魔すると、忙しくて、目の前のことで精いっぱい、すごく視野が狭くなっているところがすごく多いです。そうになると、隣の人の喜びとか、一緒になって喜ばなかったり、何かここにすごく困っている人がいるのだけれども、そこのサインに気づかなかったり、寂しいものです。人の喜びばかり一緒になって喜べたりですとか、要はともに喜ぶとか、時にはともに悔しがるとか、というのはすごく素敵な空気をつくれますし、また、良い交遊関係もつくっていくだろうとそ

んなふうに思います。

例えば色んな活動とか、お仕事にしても、使命感を持って生き生きとやっているか、あるいは嫌々やっているかで、アウトプット、結果も違ってきます。今日のようなこの学びの場も、多分同じだろうと思います。やはり楽しくというのが基本だと思っていますので、ぜひ皆さんとそういう温もりがあったり、楽しい空気を一緒につくっていきたくてそんなふうに思います。

私は今日、1人じゃんけんから始めましたけれども、別にチャンピオンの話をしに来たわけではないのです。でも、もう一個じゃんけんを紹介したいと思っていて、セブンじゃんけんというのがありまして、これは色んなところで紹介させてもらっているのですけれども、単なるじゃんけんゲームではなくて、ちゃんと意味はあるのですけれども、やってみたいと思うのです。せっかくですから、やってみたいと思っただけで、福田さん、ありがとうございます。今、目が合いましたね。もしよかったら、こちらに来ていただいて、あとからまたお仕事があるのに申し訳ありません。ちょっと福田さんはここでお待ちいただけます。

それでは、もう一方、主催者を代表して、高田さん、目が合いましたね。ありがとうございます。ちょっとこちらへ。最初から狙っていましたが、ありがとうございます。

それでは、高田さんここでお待ちいただいて、私は福田さんと高田さんとセブンじゃんけんというものをやってみたいと思うので、よろしいですか。普通のじゃんけんをしましょう。いきます。じゃんけんぽん。グーとチョキで負け。違うのです。これは勝ち負けではないのです。実は、グーとチョキで今、出ている指の数は2なのです。だんだんわかってきます。いきます。じゃんけんぽん。勝った。勝ち負けではないのです。パーとグーで今、出ている指の数は5です。よろしいですか。要はグーのときは指の数が0で、チョキだったら2、パーだったら5、2人の指の数を足し算していくのですけれども、よろしいですか。いきます。じゃんけんぽん。いいですね、チョキとパーで指の数は。(7)。大丈夫ですね、計算の方は。2足す5で7です。よろしいですね。

いきなりですが、答えが出ました。7ということで、それでは、ここでハイタッチしましょう。ありがとうございます。ちょっとここでお待ちいただきまして、高田さん、御無沙汰しております。ありがとうございます。いきます。じゃんけんぽん。グーとチョキで指の数は、2ですね。これは数字にお強い方はもうびんときているかもしれませんが、グーを出していたら、いつまでたっても7にはなりません。わかりますね。相手がパーを出しても、5ですから。いきます。じゃんけんぽん。パーとパーで指の数は。

(10)。計算は、大丈夫ですね。5足す5で10です。いきます。じゃんけんぽん。チョキとパーで指の数が7。これがセブンじゃんけんです。要はチョキとチョキだったら、これが4ということです。よろしいですか。では、できたということで、高田さん、ハイタッチです。

これがセブンじゃんけんのルールです。皆さんおわかりいただけましたでしょうか。よ

ろしいでしょうか。では、高田さんと福田さんに皆さん大きな拍手を送っていただいて。
(拍手) ありがとうございます。

これを、先程お昼御飯の後、脳のリフレッシュと言ってやりましたけれども、食後の体を動かすのも大切だと思います。もちろんそれが目的ではなくて、ちゃんと意味はあるのですけれども、一緒にやってみたいと思うのです。足とかけがをされている方はそのままお座りでも結構ですけれども、そうではない方は、御起立できる方は、御起立いただきまして、最近じゃんけんいうと、最初はグーといたりしません、ちっちゃいお子さんからおじいさんまで。物心ついたときから、最初はグーと言っていた方いらっしゃいますか。これは結構ジェネレーションがわかるのです。若い方は結構そういう方があるのですけれども、あれは誰が広めたかって知っていますか。はい、どうぞ。(志村けん)。志村けん。大正解、拍手をお願いします。(拍手) ありがとうございます。

これで、先程、空気感染と言いましたけれども、志村けんがやるのですが、そういう空気をつくり出して、子供達がやって、そういう空気をつくり出します。大人もそういう空気感染します。大人も最初はグーをやりますけれども、今日はそれをやめましょう。昔の方で、じゃんけんぽんで、7になるまでやっていただいて、7になったらハイタッチ、そうしたら、相手の方を見つけて、ちょっとやりましょうかと声をかけて、どんどんコミュニケーションしながら、7になったら、ハイタッチ。できるだけたくさんの方とハイタッチしていただけたらと思うのです。一番多かった方には、主催者である高田部長さんから、素敵なプレゼントがあるという話は聞いていません。聞いていませんけれども、たくさんの方とハイタッチしていただけたらと思います。こけないように気をつけてください。いきま。用意スタート。お願いします。どうぞ。

(じゃんけんをする)

どんどん相手を変えてください。

(じゃんけんをする)

はい、ありがとうございます。拍手でどうぞ。席にお戻りください(拍手)

遠くまで遠征していただいて、ありがとうございます。大丈夫ですか。はあはあ言っていないですか。大丈夫ですか。今のときだけ、高いところに上がらせてもらって、皆さんの様子を拝見していたのですけれども、一応私はお伝えしたと思うのですが、グーは駄目ですと言ったと思うのですけれども、結構出ている人がいました。頭の中では、チョキとパーの組み合わせとわかっているのです。理屈ではわかっているのですが、いざじゃんけんといったら、グーが出てしまうのです。2人ともです。これは勝ち負けではなくて、7をつくり出す協力ゲームなのです。ですから、無意識のうちに相手のことを考えていたりするのです。相手のことを考えながら、この人はパーを出してくれるかと、ぱっと見たら、ここでよくわかっている、優しいということ、パーを出したらいいと、ナイスパスではないですか。パーを出せばいいのに、うん、わかったと言いながら、にこにこしながら、思いっきりグーを出されたら、もうしょうがないです。頭でわかっている、体に染みつ

いたものはしようがないです。

でも、例えばゲーが失敗と捉えるかで、出来事は1つでも、解釈というのは色々だと思います。色んな角度から、光を当てて、色んな解釈、例えばゲーに光を当てると、長年の習慣の中でついぱっと出てしまいますから、ということは、長年の習慣の中でこういうのがぱっと出るということは、私達の家庭生活や地域社会の中で、大切に続けたいという習慣というのは、多分あると思うのです。挨拶であったりですとか、それこそ何かしてもらったらありがとうとか、色々あると思うのです。例えば今日はここから始めたらいいとか、履物をそろえたりですとか、色々あると思うのです。そういう良い習慣というのは、ずっと続けていくと、ある発達段階の思春期のときとかは、そのときは恥ずかしさとかあるかもしれませんが、ずっと続けていくと、自然と地域の中とかにでも、また、声が出たりですとか、何か乱れていたら、ちょっとそろえたりですとか、手が動くかもしれません。何か良い習慣というのは、ずっと続けていくというのは、すごく大切なことだと、そんなふうに思ったりするわけです。そういうものが見えてきたりしますし、あるいは今、ともに喜ぶと先ほど言いましたけれども、協力ゲームですから、7があった瞬間とか、皆さんわっと盛り上がったりします。ゲーが出ていても、盛り上がっています。そうやって、空気が急にここで紹介されて出てきたときの空気と全然違うのです。会場の中の空気が、笑い声があったり、ハイタッチみたいなポジティブな行動があったり、空気が温かくなると、温もりがあって、仲の良いようなそういう空気になります。

この空気は誰がつくったかというと、私ではないのです。皆さん一人一人がそういう空気をつくり出しているわけなのですけれども、要は、今の中にコミュニケーションの要素が実はたくさんありまして、細かい話はしませんけれども、たかがじゃんけんとはいえ、違ってくる、相手の目でも見ていると思うのです。何か相手の目も見ずにじゃんけんぼんなんて、ここではつれないじゃんけんはしていないと思います。でも、今、色々あります。仕事していても、そうです。私もやっていましたし、やられたりもしました。おはようございますと声をかけても、今、パソコンとかで仕事しているので、パソコンに向かいながら、おはようと言ったり、あるいはうちもちっちゃい娘がいますから、標的になるのですけれども、電車とか乗っていて、かわいいお嬢ちゃんがママ、と声をかけて、お母さんがスマホを見ながら、どうしたのと言って、寂しい、人間関係というのは、相手の立場になって考えてみたらわかりやすいです。声をかけた方が寂しいかもしれない。それでも、ちらっとどうしたのとか、見つめ合う必要はないですけれども、おはようとちらっと目を合すだけでも、全然二人の心の距離というか、空気が変わってくるかもしれません。本当に小さなことだと思うのです。小さなことの積み重ねが、何か私達の心にすごく関係してくると思うわけなのです。

今、コミュニケーションと言いましたけれども、その流れで、今日は女性の方の方が多いのでしょうか、男性の方に質問してみたいと思いますけれども、1年に1回でも良いです。家族のためとか、知り合いのために、私は料理をつくることがあるという方がいら

っしゃったら、手を挙げていただきますでしょうか。徳島の皆さんは、結構ぱっと挙がってきました。ありがとうございます。そのまま挙げておいていただいて、お名前は。（ハリです）。ハリさんですね。お得意な料理は何でございましょうか。（チャーハンと生姜焼き）。チャーハンと生姜焼き、ぱっと出ましたね。何かそのチャーハンと豚の生姜焼きにこだわりはありますか。（余り辛くないようにします）。余り辛くないように、ちょっと甘めを出すために何か入れるのですか。（醤油とかを入れすぎないようにします）。そうですね。塩分を余りとり過ぎないようにというそういう感じですね。きっとおいしいと思います。チャーハンとか、食べたいなというときは、ぜひハリさんに御連絡いただければと思うのですが、それをつくってふるまって食べた家族とか、知り合いからはどんな言葉が返ってきたらうれしいですか。（ありがとう、おいしかったとかです）。ありがとうございます。うれしいです。きっとおいしいと思います。では、ハリさんに皆さん大きな拍手をお願いします。ありがとうございます。（拍手）

それはそうです。料理つくる方は、皆さんよくおわかりだと思います。料理をつくって、食べた人からうまいと言われると、心のエネルギーが上がります。私も故郷がお母さんは大阪と言いましたけれども、遠くないので、ときどき帰るわけです。故郷のお母さんの味で育っていますから、お母さんの味に無意識のうちにうまいと言っています。つい言っているのです。妻などが近くにいるときには、たまに鋭い視線を感じる時があります。岐阜とか、愛知と言ったら、味噌文化なのです。おでんと言っても、味噌が乗っかっていたりとか、いやいやあなたのもうまいですと言いながら、ややこしいのですけれども、ただ、うちのお母さんは、めちゃくちゃ喜んでます。もう帰るのか、いっばいつくったのにと行って、タッパに入れて持って帰ってとか、今度いつ頃帰ってくるのとか、春ぐらいに帰れると言うと、あなたの好きないかと栗をつくって待っているから、また連絡してきてと言って、やはりお母さんはうれしいのです。心のエネルギーが上がっています。料理を褒められると。

つまり料理をつくった人は、何かおいしいとか、つくってと言われたら、エネルギーが上がると思います。つまり私達というのは、自分がしたことに対して、どういう言葉が返ってきたらうれしいかと考えるときに、これは魔法の言葉ではないかと思っているのが、ありがとうという感謝の言葉です。最近、当たり前の反対はありがたいことではないかと申し上げましたけれども、普通、ありがとうと言うと、ありがとうを言いましょとよく言います。これはもちろん大切なことなのですが、言うまでもなく大切なことだと思います。それと私は同じくらい大切だと思っているのが、これはもう皆さんがやられていることだと思うのですが、毎日です。自分の今いる場所で、どんな小さな片隅でも良いではないですか。自分のできることを通して、人のお役に立つ、人に喜んでもらう、何か喜びを与える、話を聞いてあげるだけでも良いではないですか。不安な人がいたら、大丈夫とその温もりの言葉だけでも大切かもしれませんけれども、人間関係が結構近ければ、大丈夫だと手を握ってあげたり、お手当とか、人肌恋しくなるとか言いますけれども、あ

の温もりがいいです。

そんなことに対して、皆さんがありがとうと言われるような生き方、別にありがとうと言われたいとしているわけではないのですが、結果として、ありがとうとか、そういう言葉が返ってきたら、良かったとか、またこの人が笑顔になってくれたとか、またお家から外へ出ていってくれるようになって良かったとか、もちろん例えば対人援助とかをやられているボランティアの皆さんとかだったら、特にあるのではないかと思います。色々良いことばかりではなくて、時には言葉の葉が、刃物の刃になって返ってくるようなときだってあると思います。それは色々ですから。でも、何かおいしいと褒められたり、ありがとうと感謝されているだけでも、私達は心のエネルギーというか、また明日への活力の源になることは、間違いないと思います。

あるいは頑張れという言葉があります。頑張れも大切かもしれませんが、私は、世の中の多くの方は、今自分の置かれた状況の中で、一生懸命頑張っている人というのが、ほとんどではないかと思っていて、皆が皆というわけではなくて、私もそうですけれども、ずっと元気なわけではなくて、元気がないときもあれば、体調も悪い日もあれば、気分の乗らない日とか、人間は色々あります。でも、決まった時間に起きてですとか、やるべきことをやってとか、時には無理してまででも、やっているときがあるかもしれません。

そういうふうにと考えると、それをよく見ている人は、頑張れも大切かもしれませんが、よく頑張ってる、お疲れさんとか、ねぎらいの言葉というのでしょうか。私もそういう言葉で、何かあっと救われた部分があるのですけれども、要は、私は1人ではないのだ、この人は私の思っていることをわかってくれているとか、実は、ねぎらいの言葉というのは、すごく励まし言葉ではないかと、そんなふうにも思ったりすることもあります。人から応援されて、ホームとアウェイではないですけれども、アウェイのように揚げ足をとったりですとか、悪口を言ったりとかではなくて、お互いがお互いにエールを送り合えるような、そういう関係というか、だから、アスリート達もいつまでも元気に発揮するわけですし、私達だって、同じことが言えると思います。おいしいと褒められたり、ありがとうと感謝されたり、よく頑張っているねとねぎらいの言葉をかけられたりとか、応援されたり、そうやって私達の心のエネルギーは上がってくると思うのです。要は、元気なんていうものは、よし今日も頑張ろうと、どんと出すことも大切です。

でも、いつもそうやって元気を出し続けることはできません。私もそうです。例えば地域ですとか、色んな活動の中で、人と人との関わり合いの中で、人間関係の中で、おいしいと褒められたりですとか、ありがとうと感謝されたり、よく頑張っているとねぎらいの言葉を掛け合ったりですとか、お互いにエールを送り合ったり、そういうので、私達の心のエネルギーは、がーっと上がっていくのは多いのではないかと思うのです。

ですから、今日もテーマがあります。皆さん元気がありますし、私もその地域の元気がありましたけれども、元気というのは、お互いが笑顔とか、元気とかかわち合っていくも

のだと思うのです。それで、より増幅していくものではないかと思うのです。

普通、私達が使うエネルギーは、例えば私も岐阜に暮らしていますから、完全に車社会です。徳島もそうだと思うのです。多分車を使っていたら、ガソリンとか、エネルギーは普通減っていくのですが、私達の中にあるエネルギーは、例えば笑顔とか、元気とか、人を応援したりとか、人に対する優しさ、ともに助け合ったりとか、そういうエネルギーというのは、分かち合えば分かち合うほど、逆に増えていくことが多いのではないかと思うのです。うちの妻などと喧嘩しても、娘がげらげらと笑って、娘の笑顔というか、その笑顔のパワーで、ぱっとこちらも笑顔を取り戻したりとか、そういうのはよくあるではないですか。ですから、笑顔とか、元気というのは、分かち合っていく、そういう人間関係というのは、本当に大切だと思います。家庭はもちろんですけども、色んな組織、職場もそうですが、地域の中では、そういうお互いにエネルギーが高め合えるようなそういう人間関係がすごく大切だと思います。だから、それが多分地域の元気のまずは根っこにある部分だろうと思います。

今、コミュニケーションのところから始めましたけれども、コミュニケーションの出発点は、挨拶があるかだと思います。先程も高田部長様が御挨拶されていましたが、では、その挨拶、例えば皆さんは、地域の中で挨拶運動とか、中にはされている方もおられるかもしれません。この挨拶、私は漢字で書けますという方はいらっしゃいますか。いらっしゃったら、手を挙げていただいて、なければスマホとかでぱっと調べてもらっても結構ですが、IT県の徳島県でございます。いかがでしょうか。挨拶、意外とこれは書けそうに書けないです。

私は実は、徳島は結構お邪魔するのです。毎年、来月もお邪魔するのですけれども、徳島大学病院の新人看護師さんのフォローアップ研修に行ったりとか、今月も前に県の人権講演で呼んでいただいた関係で、例の神山町に今月行ってきました。今年は美馬市とか、脇町に行ったりとか、今まで色々行っています。その中で、昔、上勝町に行ったことがあります。そのときにたまたま挨拶の話になって、講演後、あるおじいちゃんが教えてくれたのです。私はいつもこの話をするとき、上勝町、徳島というのは、色んなところで絶対キーワードに出てくるのですけれども、こういうことを教えてくれたのです。こういうふうに覚えれば、忘れないということで、てへんに「ム」を書いて「矢」を書いて、てへんに「くくく」の「夕」と書く。こうやって書けば忘れないと言われたのですけれども、ただ、書けない絵が必要なわけではなくて、そのおじいちゃんが大分前なのですけれども、そのときに質問して下さったのです。挨拶とはどういう意味と質問してきたのです。うっとなりました。皆さんはどうですか。挨拶というのはどういう意味ですか。私は、挨拶というのは、大切なことという概念はわかるのです。家庭生活、地域社会、色んな人達の人間関係の中で、挨拶は大切という概念はわかります。では、挨拶とはどういう意味ですかと言われたときに、皆さんはどう答えますか。100人いれば100人の色んなお答えがあると思うのですけれども、私はそのときに自分の言葉で表現できなかったのです。すぐに教

えてくださいと言いましたけれども、今でしたら、同じような質問をされたら、もしかしたら心も空気感染すると言いましたが、朝から地域とか、家庭などで、良い挨拶のやり取りがあれば、良い空気になりますから、皆が朝から気持ちがいいとか、何かそんな話をするとと思うのです。

そのおじいちゃんいわく、これは私などよりも詳しくはありますが、これは仏教の言葉らしくて、あの菩薩も、相手に対して、素直にずっと迫るといえるか、心のシャッターをオープンにします。シャッターが開いているわけです。心のシャッターが閉まっていると、先程の双方向のやり取りができないではないですか。要は素直なのです。一緒になって楽しめるのです。だから堅いところです。何々さんおはようございますと迫っていくことを「挨拶」と言います。それに対して、これだけでは本当の挨拶は成立しないらしくて、「挨拶」が問題です。「挨拶」が何かと言ったら、これも同じように「挨拶」に対して素直で、何々さん今日も良い天気ですねと、相手にずっと迫っていく。そういうものは当たり前ではないかと思われるかもしれませんが、でも、この当たりのことは意外にできていないことが多いかもしれません。

要は、おはようと来たら、おはようと返すキャッチボールであったり、何かしてもらったらありがとうと感謝の言葉で返したり、おいしいチャーハンをつくってもらったら、いつもありがとう、おいしいよということを返したりですとか、話す、聞くとか、私らはコミュニケーションは、先程も言いました、双方向、キャッチボールすることでお互い理解し合ったり、お互いのことを共感し合ったり、学び合ったりですとか、刺激を受け合ったりとか、切磋琢磨し合ったりするわけなので、キャッチボールが大切なのです。

その証拠に、書くものをお持ちでしたら、利き手にお持ちいただきまして、私が今から皆さんにあることを申し上げます。それを聞いたままで、そのお手元の紙をどこでもいいです。書いていただけたらと思うのです。よろしいでしょうか。

ない方は、貸し借りでも、指で描いてもらったらいのですが、丸の上に線を書きただけですか。書けた方は、御近所さんに見せ合いっこでもしていただいいて、いかがでしょうか。同じような感じですか。ありがとうございます。

私は今日、昼ご飯を食べ終わった後に、みかんをいただいたので、その関係ではないですけれども、これを書きました。見えますか。丸の上に線ということで、果樹園みたいなマークです。私と同じようなこういう絵になった方は手を挙げていただきますでしょうか。いらっしゃいました。これでも今日、1人、100人いても多くても5～6人ぐらいで少ないのです。

統計を取っているわけではないのですが、これが一番多いと思っているのが、これなのです。丸の上に線、こんな感じの絵になった方は手を挙げていただけますでしょうか。多いですね。半分ぐらいいきました。ありがとうございます。

その次に多いと思っているのが、これなのです。同じところでも、丸の上に線、こんな感じの中に収まるという絵になっている方は、手を挙げていただけますでしょうか。若干

こちらの方が多いですか。

これもあります。丸の上に縦に線、斜めに線もあると思うのですが、これはどうですか。いらっしゃいますね。ストレスたまっていらっしゃるとか、そんなことはないですね。

別にこれは何の心理テストでもないです。これだって、丸の上に線ですし、よく漢字などもあるのです。例えば丸書いて線とか、千丸とか、今日、いらっしゃいますか。いらっしゃいますね。やわらかいです。あるいはこれより多いのが、丸の上に漢字で線とか、これはないですか。よく銀行、金融機関とか行くと、要は全部で12~13例があるのですけれども、丸の上に線と星座みたいなのを書いていたり、これはありますか。実際あるのです。あるいはこの人素直な人だと思うのが、丸の上に文字でそのまま書いている人とかあるのです。ないですか。結構こういうことがあったりするのが、素直な人だと思います。

あと、他に線を結ぶとか、色々あると思うのですけれども、皆さん正解で、皆さんがその場で受け止められた丸の上に線ですので、誰が悪いかと言ったら、この場合は、私が9割以上もちろん悪いわけです。何の質問も受けつけずに、丸の上に線、はいどうぞと言っていますから、一方通行でやっていると、ギャップが生まれてくる動きがあります。ずれがあります。相手はこうやって言っているのに、こうやって受けとめたりして、そのことで何かトラブルになったり、言ったり、言わないとか、場合によっては事故につながったり、広告や連絡、相談、あるいは確認です。丸の上に線と書けば、それはこういうあれなのだ、やはり双方向のやり取りです。人間関係の誤解というのは、一方通行からくる部分が多いのです。

だから、腹を割って話そうと言いますけれども、挨拶が教え深いと思うのですが、コミュニケーションはまずキャッチボールだということで、今から、キャッチボールと一緒にやっていただこうと思っているのです。できれば、2人1組のペアをおつくりいただけたら、うれしいと思うのです。どうしても3人組でないとと言う人は、3人組でも結構ですけれども、できれば2人1組、あるいは今日はそんな気分ではないという人は、観察者でも結構です。できれば、お互い声を掛け合って、これもともにという精神がありますから、皆が支えるですから、お互い支え合って、ペアになりましょうと声を掛け合っていただければと思います。では、どんなペアでも良いです。初めてしゃべる方が楽しいと思います。御夫婦だったら、今日は別れてもらった方が良いかもしれません。お互い刺激になりますので、ペアをおつくりいただけますか。

(ペア作成中)

よろしいですか。ペアいらっしゃいます。大丈夫ですか。ペアいない方はいらっしゃいますか。手を挙げていただければ、その方同士、あるいは事務局の方にも入っていただければ、大丈夫ですか。よろしいですか。

それでは、ペアはできているということで、進めていきます。これも何かの御縁です。これもコミュニケーション、まずお互い握手から始めてください。握手どうぞ。

(握手中)

それでは、そのお2人で、先攻、後攻を決めていこうと思うのですが、今日は12月20日で、もうすぐ年が明けますけれども、元旦から見て、どちらが誕生日が早いか、何歳ではないです、年齢ではなくて、要は、1月2月だと、1月の方が早く先攻という、同じ月同士だったら、早い日生まれの人でも良いです。日が一緒だったら、誕生日一緒ということですね。そういう人は抱き合っていて結構でございます。あとは何時ごろ生まれたとか、時間で競い合っただけならと思います。では、どちらが早く生まれているか、まず競い合ってください。どうぞ。

(コミュニケーション中)

それでは、さすがに抱き合っている方はいらっしゃらなかったですか。ちなみに今日は12月20日ですが、今日が誕生日の方はいらっしゃいますか。明日という方はいませんか。明後日という方はいませんか。昨日という方はいませんか。一昨日だったという方はいませんか。一昨日いらっしゃいました。ありがとうございます。御起立いただいて、お名前は。(ナカムラと言います)。ナカムラさん、一昨日、誕生日だったということで、皆さん大きな拍手をお願いします。(拍手)おめでとうございます。

今、ナカムラさんに拍手がきましたけれども、腹が立ったりしましたか。(うれしかったです)。ありがとうございます。そうですね。先程、ともに喜ぶなど言いましたけれども、これはコストゼロです。お金はかかっていません。でも、これだけでも、おめでとうとそれだけでも皆さん温かい心、行動だけでも空気がぱっと変わっていきます。そして、ナカムラさんはうれしいと、もう素敵な笑顔です。要は、私達は、自分がされてうれしいことは、きっと人も同じようなことってうれしいのです。あるいは自分がされて嫌なことは、きっと人も同じことはいやなのだろうなというような想像力というもの大切なのかと、交友関係で思うわけです。

それでは、私の方が、早い月生まれという人は、手を挙げていただけますでしょうか。同じ月の人だったら、早い日生まれの人でいいです。その方は、挨拶を教えたが、コミュニケーションはキャッチボールと言いましたので、一番の基本の「話す」、「聴く」の聴き手をやってください。いわゆる門構えの耳、hearの方ではないです。listen toの方です。心という字が入っています。素直に相手の話を受けとめようということで、首を横に振るのではなく、頷くというのは縦です。皆さんの中でも、傾聴のボランティアとかされている方もいらっしゃると思いますけれども、要は素直に相手の話を受けとめようということで、相手の立場を見るということです。

早い月生まれではなかった方は、話し手でございます。今日は何を話すかということ、一応私の資料は薄くて、申しわけないのですが、皆さんにお配りのシンポジウム資料の1ページ目で、そこに「地域の絆、みんなの笑顔～人と人とのつながり～」と書いてありますけれども、お題として書いています。皆さんに今から、徳島の魅力について、徳島という大きく括ってもらっても良いし、自分達の町でも良いです。魅力、あるいはその日から進んで、今回のキーワードです。輝く徳島です。つまり未来の輝くイメージです。こんな

徳島になったら良い、こんな地域になったら良い、それぞれのまち、あるいは自分達の活動がこんなふうになったら良いということも結構です。できれば、この徳島の魅力ですとか、あるいは輝く徳島のイメージについてとか、特に未来への話などはすごく良いのではないかと思うのです。こちらについて、話していただいて、聴き手側の方は、それを素直に共感しながら聞いていただく。普通、聴くというと、受け身で捉えている方がすごく多いのですけれども、そんなことはありません。傾聴などのボランティアをされている方は、よくおわかりになると思います。聴くというのは、相手の話を引き出す、相手のニーズを引き出す、心のシャッターを上げていったりする、すごく積極的なコミュニケーションです。

今日、誕生日月が早かった方は、聴いているだけで良いのか、ラッキーと思っておられるかもしれません。残念でございます。ここは平等な場です。途中でストップと言いますので、ストップと言ったら、役割をチェンジでございます。今回、徳島県民ではない方もいらっしゃると思います。その方は、徳島がこんなふうになったら良いなみたいなことを、お話いただけたらと思います。そのときは、役割チェンジでございます。聴き手と話し手が逆転します。

今日お集まりの全ての皆さんが、徳島の魅力ですとか、くれぐれも徳島のこんなところがいかぬではなくて、徳島の魅力ですとか、好きなどころとか、あるいは輝く徳島のイメージです。こんな県、自分達の町でも良いです。自分達の活動も含めて、こんな徳島になったら良いな。やはり未来へのイメージを持っておかないと、これは大切です。だから、聴き手側の方は、質問などをどんどんしてあげてください。それで共感する。

ルールはたった1つだけです。聴き手側の方、絶対に相手の話を批判・否定しないことです。これだけよろしくお願いします。誰かが、10年後、徳島県はこんなふうになってほしいと言って、そんなふうになれるわけがないとか、そういうことは言わないでください。ばさっと切られると、物すごく切れ味で切られるほど、人は話す気をなくしてしまうことがあります。ミーティングなどでもそうです。心のシャッターを下ろしてしまうときがあるかもしれません。まずは共感して聴いてください。これは議論ではなくて、勝ち負けではなくて、相手の価値観に触れ合うと、最初に申し上げました。

あと、今日はアドバイスもやめましょう。皆さんは、普段色んなアドバイスを立場上されている方もあるかもしれません。アドバイスは大切です。これはまず相手の話を素直に聴く。だから、こういうふうにやったら、もっと良くなるとかね。これは良いのです。ベターなアプローチですから、いいのです。

先程言った傾聴、相手の話を聴く、そのときの心得として、こういうものがあるのです。まず正そうとするな、わかろうとせよという心得があります。正そうとするのではなくて、わかろうとする。正すというのは、大切なことなのです。でも、まずは相手のことをわかろうとする。相手が悩みごとを抱えていたとしましょう。それを自分に置きかえてみたときに、勇気を出してしゃべらなければいけなかったかもしれない。そのときに、それを聴

いた人が、それはこうすれば良い、こうしたらもっと良くなるとか、良いアドバイスをもたらしたかもしれません。でも、その前に、勇気を出してしゃべっているのを指した、よく話してくれたねとか、ねぎらいの言葉をかけたり、そんなことでずっと悩んでいたのか、そんな問題意識を持っていたのか、1人でずっと悩んでおったのか、それは大変だったね、私も君と同じようなとき、同じような疑問を持ったときがある。そんなときは、こうやって、今、こういう活動につながっている、もしよかったら、君どうかみたいな感じの、自分の気持ちをわかってもらった上で、アドバイスしてもらった方が、すっとくるときがあります。いきなりどんとこられるよりはね。もちろん緊急な場合とか、そういうものが必要な場合もありますけれども、まずはやはりというね。色んな状況にもよりますけれどもね。

何でこんな話をするかという、人間というのは、私もそうですけれども、欠点探しめちゃくちゃうまいのです。何なのかあの人、どうなっているのか、バス遅れてとか、こうなるわけです。別にそれが悪いというわけではないのです。

よく研修などでディベートなどをすることがあるのです。山派、海派に分かれたり、徳島でも、海が好き、山が好きに分かれても、こんなものははっきり言って、延々に続くのです。だから、そうではなくて、欠点探しが悪いわけではなくて、それは改善に繋がっていくわけです。

例えばボランティア活動も、日常の中のこういうところに対して問題意識を持って、そこから取り組まれている方がほとんどではないかと思います。だから、それはすばらしいアプローチなのです。だから、私らは、欠点探し、そういう筋肉トレーニングはずっとできています。

だったら、もう一つ大切なものがあると思います。それもボランティアの皆さんなどは、すごくやられていると思います。それは何かというと、良いところ探しだと思います。こちらの筋肉トレーニングです。要は自分達のいいところですか、人の良いところを褒めたり、感謝する。我が町の良いところですか、ここが良くないというアプローチの視点も大切なのですけれども、こんなすてきなこともたくさんあるのではないかと、こんなふうになったら良いのではないかと、良いところに目を向けるというのは、すごくポジティブで、心も豊かな状況ではないかと思います。

ですから、今日はお互いの良いところを見つめ合っただけだったらと思います。お互いの良いところを見つめ合うと言いましたから、話しやすい雰囲気をつくるために、まず見つめ合ってもらって結構でございますけれども、今日は、ちょっと前置きを長くしました。何を話そうか、多分考えてこられていたと思うので、いきたいと思います。

早い月生まれの方が、まず聴き手ということで、このお題で自由に話を展開していただいて、できれば、未来への徳島のイメージ、あるいは我が町の地域のイメージなどを話していただいていたければと思います。よろしいでしょうか。いきます、用意スタート。お願いします、どうぞ。

(ペアで意見交換)

ストップでございます。ごめんなさい。話は途中かもしれませんが、今度、役割チェンジでございます。もうチェンジされている方もあるかもしれません。それはそのまま続きをしていただけたらと思います。いきます、用意スタート。お願いします、どうぞ。

(ペアで意見交換)

ありがとうございます。お疲れ様でした。お互い握手で終わっていただけたらと思います。ありがとうございます。すてきな良い握手でありがとうございます。(拍手)私の滑舌が悪くて、拍手が起こっています。ありがとうございます。3人で握手されている方もありますし、両手をとっていただいている方もあります。

やはりキャッチボールすることで、お互いのことを理解したり、共感したりする部分もあります。心の距離が近づいているとわかる瞬間が色々あって、皆さんがつくり出しているこの部屋の中の空気もちろんそうです。すごくすてきな空気です。

ちょっと仕掛けを用意していたのですが、それは何かというと、皆さんにやってもらった握手なのです。最初にペアを組んだときの握手と、キャッチボールをし終わった後の握手ではやはり違います。後の握手の方が、3人でぐっとなっていたり、両手をとられている方とか、ありがとうと、相手の目を見ながら、ずっと手の出るスピードも違います。

ちょうど忘年会シーズンですけれども、例えば皆様の中で、今年よく頑張ったね、心が1つになっているとか、心の距離が近いほど、良い乾杯をします。でも、皆がばらばらだったら、乾杯もばらばらかもしれません。心も体と連動していますから、体も同じような反応を示すことがあるのですけれども、でも、こういう話題はすごくすてきだと思います。会場の中もすごく明るいですし、生き生きとしています。

もちろんこういうところが良くないとか、そういう課題を出して、どうしようかということも良いのですけれども、こういうものがいけないとなると、空気がまた違いかもしれません。もちろん大切なのですけれどもね。

つまり私らというのは、未来志向の明るい話題とか、あるいは徳島の魅力ですとか、いいところとか、そういう話をしていると、話している方も、聴いている方も、元気が出てきます。こういうところが良くないとか、こういうところを何とかしようということも大切なのですけれども、そればかりの話題だったら、またその話かということが、結構あったりするのです。

だから、それも大切なのですけれども、その向こう側とか、例えばボランティア活動をされている方、あるいはそうではない方も、日常の仕事や日常生活があると思います。目の前に色んな壁があると思います。もちろんこの壁に対して、これをやっていく。そのことで、私らは成長していくわけですから、壁というのは、成長の糧なのです。どんなことでもそうだと思います。成長の糧です。負荷がかかるから、筋肉がつくのと一緒なのです。

私もよくあるのですけれども、忙しいと、例えば目の前のことで精いっぱい、壁ばかりが目に入って、視野がすごく狭くなるときもあります。それも人情だと思います。だけれども、ときどき、ふっと立ちどまって、挨拶とか、人と人のキャッチボールをやりましたけれども、自分なりに自分とキャッチボールするような静かな時間の中で、壁の向こう側といいたいでしょうか、今みたいな未来の話というのは、やっているボランティア活動の向こう側ですとか、日常生活とか、仕事の向こう側というか、こちらをイメージしたり、こちらを語り合ったりすることは、すごくすてきなことだろうと思いますし、そういうことはたくさんされていると思います。

先程、後ろのパネルを見ましたけれども、まずこういうものがあって、だから、こういう活動をやっている。でも、忙しいと、ついつい、これを忘れたわけではないのですけれども、こちらの目の前のことで精いっぱいになって、大切なこちらを、忘れたわけではないのですが、頭の後ろにいつてしまうことがあります。でも、これはモチベーションの源にもなると思うので、要は何のためにこれをやっているのだろうか、誰のためにやっているのだろうか。もちろん自分自身のためとか、色々あるのですけれども、何々のためという、壁の向こう側、ボランティア活動の向こう側とか、日常生活、仕事の向こう側をイメージするような時間、あるいはそれを言語化するというか、言葉に変えていく時間も大切ではないかと思います。

今の流れで、そこのテキストというか、ちょっと書かせてもらっているのですけれども、今回、地域の元気というか、皆が元気とあります。今回、お題で地域を元気にとあるのですけれども、1つ方程式というか、ちょっとしたコツがきっとあるはずですよ。それは何かというと、今、やってもらったようなことなのです。今、時間はすごく短かったのですけれども、そこに書いていますように、今はペアでしたが、グループなどでもいいです。そんなにかしこまってでなくても良いのです。地域の魅力を語り合うというか、地域のこんなところは駄目だ、たがら、何とかしようという語りももちろん大切です。改善に繋がっているアプローチです。

でも、そればかりではなくてという話です。良いところ探しと言いました。こんなところはすてきだ、やはり気持ち良いと思います。そうなってきたら、それはグッドニュースです。良い話題、良いポイント、そういうものの循環です。つまりそういうものをシェアしていくわけです。今はペアでしたけれども、その後で、こんな話が出ましたと、グループでやると、すごく良いかもしれません。ホワイトボードを使ったり、何でも良いと思います。グループの中でシェアしていったりする。その過程の中で、こうなったら良いと、理想の未来について語っていくというのは、すごくすてきだと思います。

そうなってくると、もしかしたら、これまで地域のことに他人事だった人も、そういう場に入ってみて、そういう語りの空気の中に入ってみて、自分の地域はこんなすてきなことがあるとか、こんなふうになったら良いのではないかと、そんなことを思うとか、今まで地域のことなどを顧みなかった、いわゆる他人事だと思っていた人も、その瞬間、自分事

に変わっているかもしれません。1つの大きなきっかけになるかもしれません。

その過程の中で、じゃあというのが大切だと思います。理想の未来にちょっとでも近づけるために、私達で何ができるのだろうか。別に大きなことをやろうではなくて、どんなことでも良いのです。今よりも周りにいる人達が少しでも笑顔になるために、私達は何ができるだろうか。どんな小さなことでも良いと思います。どんなことができるかという、アクションの部分につなげていたり、こういうことが、地域の元気を引き出す1つのコツだろうと思います。

もちろんこういうところを何とかしようというアプローチも大切なのですが、そればかりではなくて、こんなすてきなことがあるという循環を図りながら、そこからもっとよくなるためにはとか、未来がとか、子供達が大人の世界に夢を描ける、徳島とはどんな徳島だろうとか、語り合ってみることはすてきだと思います。

他人事を自分事に変換していくと、気持ち良くなります。特にボランティアの皆さんというのは、既にそういう実践者でもあるわけですから、地域の中で、例えばこんな場というか、無理やりではなくて、いわゆる巻き込んでいく。そういう機会があったり、あるいはそういう空気、未来に向けての空気をつくっていく。皆さんそういう御活動をされていますから、そういう空気をつくり出しているのですけれども、やりようによっては、未来に向けてのより良い空気、周りの方も巻き込んでいくようになると思います。

特に皆が支えると書いていますけれども、皆が他人事ではなくて、自分事に思えるような、そういう空気をつくっていく。

クリエイターなんて書かせてもらっていますけれども、ボランティアの皆さんは、そういう空気をつくっていくこともできるわけです。色んな活動を通して、単にこういうことを今やっているということではなくて、そこには色んな付加価値がくっついているのだらうと思います。地域にとって、すごくすてきな付加価値がくっついていると思います。その部分にも光を当てていただいて、そちらもどんどんフォーカスして、そちらにも力を入れていただけたらと思います。

先程言った地域の元気力を高めていく、そういう空気をつくるというのが、ポイントです。その出発点が、私はマザー・テレサさんの有名な言葉にあるのではないかと思います。マザー・テレサさんが、「愛の反対は」と言われました。これは御存じの方がたくさんおられると思います。「愛」の反対は何と言われたか、御存じの方、いらっしゃいますか。北井さん、大きな声で言ってください。（「無関心」）。大正解です。北井さんに皆さん大きな拍手をお願いします。（拍手）

「無関心」、素晴らしいです。私は「憎しみ」や「嫌い」だと思っていたのですけれども、「無関心」ということは、奥が深いと思います。「無関心」ということは、これを人としたときに、この人は「苦手」と言っているのは、まだこの人に関心があるわけです。

よく第一印象が大切だと言いますがけれども、確かにそうかもしれませんが、人はコミュニケーションをしてみなければわかりません。要は第二印象とか、第三印象のほうが、大

切だと思えるのですけれども、無関心ということは、これは関係ないということです。

社会福祉の民生委員さんの大会などに行くと、無縁社会、縁がなくなる社会と聞いたりします。色々あります。孤独死から、そういうものが生まれてきていますけれども、要は俺には関係ない、先程言った他人事です。他人事だと寂しいです。皆が我が町、我が未来に対して、関係ないとなってくると、支えるということと全く逆になってくるわけです。ですから、皆が自分事に思えるような、そういう空気は大切だろうと思います。

地域の未来ですとか、先程言った子供達の未来ですとか、ここに集まられている皆さんは、そういう方ばかりです。関心を持つということが、まず出発点です。無関心ではなくて、関心を持っているから、色々調べようとしたり、気になって質問したり、あるいは動いてみたりするわけです。

例えば福祉のまちづくりとか、何とかのまちづくりとか、色々ありますけれども、出発点は一人一人がそういうことについて、地域あるいは地域の未来について、子供達の未来について関心を持つという、そこが大きな出発点なのだろうと思います。

今日は、そういう方がほとんどだと思います。あるいはボランティア活動に興味はあるけれどもという方なども、今日、色々コミュニケーションしていただいて、あるいはこの後のパネルディスカッションで、実践者の方々のお話を聴いていただいて、関心度合いをさらに深めていただいて、アクションに繋げていただけたらと思ったりします。皆が支える町の出発点は、やはり「関心」ということが出発点にあると思います。「無関心」ではなくて、「関心」だと思います。

それに関連して、先程「聴く」、傾聴なんて言いました。その生みの親でもありますけれども、カウンセリングの神様でもあります、カール・ロジャーズという方は、こんなことを言われているのです。この世の中は色々あると言うのです。うれしいこともいっぱいあるけれども、しんどいこともたくさんある。しんどいことについて、色々言われたわけです。でも、そんな世の中でも、たった1人でも良いから、自分のことを理解してくれる人の存在ですとか、自分のことをわかってくれる人の存在、あるいは自分の気持ちに寄り添ってくれるような人、うれしいときに一緒に喜んでくれたり、しんどいときに、それは大変だねと、自分の気持ちに寄り添ってくれたり、あるいは自分の話を最後まで静かに聴いてくれる。正そうとするのではなくて、自分のことをわかろうとして聴いてくれる、そういう人がたった1人でもいるだけで、人はまた明日から頑張っていけると言われたのです。

1人と言いましたけれども、別に2人でも、3人でも良いかもしれません。それは誰かわかりません。人によって、パートナーかもしれません、誰かわかりません。実際、地域の中で、そういう心のサポーターとして活躍されている、活動されている方もたくさんおられると思います。この人がいてくれるから、その人の存在が、ときとして生きるエネルギーを高めたりすることもあるわけです。

今、言った心のサポートの部分をされている方、現場にいらっしゃる方も、色々大変で

す。だけれども、そんな活動をされている皆さんのことを理解してくれている人の存在であったり、そんな活動をされている皆さんのそのときの気持ちに共感してくれたり、皆さんがそのときに何か感じたら、話をじっくり聴いてくれるような、そういう人の存在が、今の皆さんのボランティア活動だったり、あるいはお仕事だったり、家庭のことだったり、そういう自分のことを支えてくれていたりするわけです。ですから、人間関係なのです。

最初、セブンじゃんけんでも言いましたけれども、おいしいと褒められたり、ありがとうと感謝されたり、よく頑張っているねとねぎらいの言葉をかけられたり、人からエールを送られたり、温もりの言葉の1つでも良いのです。言葉はなくても、家族だったら、抱きしめ合うだけでも良いと思います。そんなことだけでも、私らはエネルギーが上がってくるわけです。地域の元気もそうですけれども、その前にまず一人一人の元気が、心の部分というのは、こいつがいてくれるからとか、お互いがエネルギーを高められる、そういう人間関係が土台だと思います。これが土台、基礎の部分だと思います。そうでないのに、上物だけ立派なものを建てても、杭が届いていなかったら、ぐらぐらするのと同じです。色々と問題も起きるわけです。

土台の出発点はやはり挨拶です。挨拶は良い教えだと思います。お互いが話し合ったり、聴き合ったりという、キャッチボールです。お互いのことを理解し合おう。色んな価値観を共有し合わない、まずはそこからです。ときには、議論なども必要かもしれませんが、まずは相手を尊重しながら、色んな価値観と触れ合いながら、お互いの理解に努める。そういうところになってくるわけでございます。

色々と御協力をいただきましたけれども、テキストは残り2つです。ぱぱっといきます。

これは私の座右の銘でもあるのですけれども、ぜひ皆さんにもお届けしたいと思うのは、積小為大と言いまして、これは二宮金次郎さんの教えを四字にくぐっと凝縮したのですが、要は小さなことの積み重ねが、やがて大きくなるということなのです。何でも小さなことからコツコツとということだと思います。

例えば空気づくりの話からしましたけれども、空気も一人一人の心のあり方、笑顔、挨拶だったり、感謝の言葉1つで、良い空気になっていたり、輝く徳島も、一人一人の思いだったり、それに向けての行動の積み重ねが、そちらに向かっていくわけです。目的はここなのです。

ボランティア活動をされている方、先程、壁の向こう側、ボランティア活動の向こう側、これのためにという理想があると思います。ビジョンです。この実現のために、日々頑張っているわけですが、輝く徳島のためにと言ったときに、こういう未来になってほしい、我が町の理想論、未来像があります。だけれども、大切なのは、当然こちらだと思います。そのために、私達は、今日、あした、何を積み重ねていくのだろうか。どんな小さなことでも良いのです。そのことの積み重ねがここにいくわけですから、目的はもちろんビジョンとか、こちらなのですけれども、大切なのはここです。

私もできていないことが多いわけです。ですから、普段見えるように、特にここを強調

して、大きく壁にはって、見えるところにはっています。要は私達の日々の行動の積み重ねです。

そういうことで、ずっとお座りですので、ここで、御起立いただいてよろしいでしょうか。済みません。足が痛いという方は、座ったままで結構ですけれども、御起立いただいて、椅子を机の中にしまってくださいまして、人数の関係にもよりますが、今日は簡単にこの通路からこちら、この通路は真ん中だけのグループです。こちらからこちらという感じで、隣同士の方と手をつないで、こんな感じで、一列ずつ、列をつくっていただけたらと思います。こんな感じで手をつないでください。お隣同士で手をつないでください。こちらを向いてください。

長くて5～6人ぐらいになってください。4～5人がちょうど良いと思います。余り長くならないようにね。何か長いところはありませんか。6人を超えているとか、大丈夫ですか。

ぎゅっと握り合っているのが、絆、チームです。仲間だと思ってください。もう離さないという感じです。今からあるミッションがあります。皆さんにそこで軽くジャンプしていただきます。私がせいの、はいと言ったら、はいのタイミングで、手をつないだ仲間同士で、軽くジャンプしてください。ぼんと上がり過ぎて、捻挫などをしないようにね。見舞い金も何も出ませんからね。眼鏡とか、携帯とか飛び出さないように、軽くです。周りと息を合わせてください、心を合わせてください。

いきます、せいの、はい。

(仲間同士でジャンプをする)

良いですね。良いジャンプです。今の要領を覚えておいていただいて、今度、私は何も合図を出しません。皆さんも合図を出さないでください。だんだん手がべたべたしてきた方もあるかもしれません。良いのです。これが生きているということです。今と同じ要領で、テレパシーがある方は、合図なしでも、使ってもって良いです。できるだけ同じタイミングで、ぼんとジャンプをしていただけたらと思います。

それでは、お好きなようにしてみてください。

(自由に仲間同士でジャンプをする)

素晴らしいです。さすがです。ありがとうございます。拍手をお願いします。(拍手)
お座りください。ありがとうございます。

さすがです。早いです。さすが普段アクティブに行動されている皆さんです。一瞬です。ちょっとやっただけで、ぼんと飛ばれましたけれども、これはもうおわかりだと思います。誰かが間違えなくアクションを起こしています。何か動いています。手を繋いでいるのも、コミュニケーションです。あっ、いくのか、大体前が当たって、後ろも芋づる式に飛び始めたりするのです。要は飛ぶ空気が変わったわけです。

でも、これは良くあるのです。よく指示待ち族と言いますけれども、誰かに何かを言われたら、行動するというタイプの人ばかりだったら、周りが飛んでいても、早く誰か飛べ

よ、合図を出してくれと、いつまでもジャンプできないときも、たまにあるのです。でも、そういうものへ影響を与えていくことは、大切だと思います。でも、誰かがアクションを起こすことで、変化していく。

挨拶と言いましたけれども、挨拶もいつも皆できるわけではありません。そのときに悩んでいる人もいるかもしれません。出掛けに物すごい親子げんかをした人もいるかもしれません。でも、いつでも参加できるような空気をつくっておくことは、大切だと思います。

ですから、誰かがアクションを起こすことで、変化が生まれます。皆さん既に行動されている方ばかりですけれども、これからという方も、刺激を受けながら、何か一緒に行動していただいたり、アクションに繋げていただけたら、うれしく思いますし、空気から始めましたけれども、皆さんの行動、アクションで、輝く徳島のために、未来のために、地域や人の笑顔のために、すてきな空気、徳島の未来とすてきな空気をつくっていただいて、どんどん周りも巻き込んでいくような、すてきな空気をつくっていただけたらと思います。

今日は、最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございます。

手話の皆さん、要約筆記の皆さんもありがとうございます。こちらにいる皆さんに、大きな拍手をお願いいたします。（拍手）

今日、お集まりの皆さんには、色んな交流の中で、先程も言いましたけれども、新たな協調関係と言うか、協力関係で、相乗効果で、1つと1つのグループが、3にも4にも発展していくような、この後のパネルディスカッションも含めて、そんな交流の場になっていくことを祈念して、終わりたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○司会 どうもありがとうございました。

こころ元気研究所の所長でいらっしゃいます、そして、こころ元気配達人の鎌田敏様に御講演をいただきました。心も体も温まるすてきな時間を共有させていただいて、ありがとうございます。これからもあちこちを飛び回られると思いますけれども、また徳島にも元気を届けていただきたいと思います。皆さん、もう一度、大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

それでは、ここで皆様に御案内を申し上げます。このシンポジウムは、徳島県立総合高等学校のまなび一あ徳島の主催講座となっております。まなび一あ徳島の学びの手帳をお持ちの方は、本日のプログラム終了後、単位認定シールをお渡しいたしますので、お帰りの際に、受付にてお申し出ください。

それでは、これより10分間休憩を挟ませていただきまして、パネルディスカッションを始めさせていただきます。パネルディスカッションは、3時15分から始めさせていただきます。それまでには、またお席にお戻りいただきますよう、お願いいたします。

今日は、お忙しい中、御来場いただきまして、誠にありがとうございます。

（休 憩）

○司会 それでは、お時間になりましたので、これよりは「みんなが支えるまち・とくしま」をテーマに、パネルディスカッションを始めさせていただきます。

地方の創生を進めていくに当たっては、自分のことは自分で行うという自助の精神に達しながらも、身近な分野で多様な主体がともに助け合い、支え合うという共助の精神で活動することが重要です。つまり地域の活性化を図るためには、NPO法人や地域のボランティア団体等による地域の絆を生かした共助の活動が重要となってきます。

そこで、地域における共助の輪を広げるため、それぞれの地域で共助の活動を行っている5団体から、5名の方にパネリストをお願いしております。

まず御出演の皆様を御紹介させていただきます。

皆様から向かって左より、内閣府の共助社会づくり懇談会委員として、また、日本NPOセンター常務理事として御活躍の田尻佳史様にお越しいただいております。（拍手）

田尻様には、今回のパネルディスカッションのコーディネーターをお願いしております。よろしくお願い申し上げます。

そして、御登壇いただいております、パネリストの皆様を御紹介させていただきます。

NPO法人ジョブOBネットワーク理事長でいらっしゃる、仁尾國雄様です。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

NPO法人きのこハウス理事長でいらっしゃいます、横田弘一様です。よろしくお願いいたします。（拍手）

NPO法人マミーズ理事長でいらっしゃいます、佐々木美代様でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

NPO法人こやだいら理事長でいらっしゃいます、阿部義則様でいらっしゃいます。よろしくお願いいたします。（拍手）

NPO法人徳島共生塾一步会理事長でいらっしゃいます、新開善二様です。よろしくお願いいたします。（拍手）

以上6名の皆様にパネルディスカッションをお願いいたしておりますので、これより進行を田尻様にお任せいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○田尻氏 皆さん、お疲れ様です。

鎌田さんが良い空気を残していってくれていますので、このまま続けてやっていきたいと思えます。

鎌田さんとは、私は出身が隣町なのです。同じ大阪の寝屋川というところが私の実家で、そういう意味では、縁が深いと思っております。

非常に限られた時間の中で、5名の皆さんの活動をしっかりお含みいただくという意味では、発表いただく5名の皆さんには、かなり無理をかけているのですが、できるだけ私の無駄な話をしないで、徳島の地で元気に活動されている皆さんの話を、事例をお聞きいただきながら、皆さんもこの地域で元気になっていくヒントをお持ち帰りいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、早速ではございますが、仁尾さんから活動の御紹介をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○仁尾氏 NPO法人ジョブOBネットワークの仁尾といたします。

仁尾という字は、言葉で言っても、なかなかわかっていただけないのですけれども「仁尾」と書きまして「にお」といいます。よろしく願いいたします。

私共、ジョブOBというのは、仕事を離れて、リタイアした人達です。当然毎年出てくるわけですが、そういうシニアが、自分らで活動場所をつくろうではないかということで、約10年前に設立をいたしました。

私共の活動の指針としましては、3つあります。

1つ目は、今、ありましたように、場所をつくろう、色々な場所をつくっていこう。

2つ目は、仕事づくりです。仕事を離れたのだから、仕事はしなくても良いということではなくて、自分達の経験を生かしながら、社会と繋がりを持ちながら、仕事づくりをしていこう。

3つ目は、社会です。地域という言葉が現役のころには、余り気にしませんでした。だけれども、やはり人と繋がっていこうではないかということで、3つ目のネットワークづくりというものを目指して、活動の指針としております。

我々の合言葉としましては、「自立すれど、孤立せず」というものを持っています。これは何かと言いましたら、先程来出ておりますように、世話にならないように、自立していきたい。だけれども、孤立しては駄目です。要は皆と、地域と繋がっていこうという意味だと、理解していただけたらと思います。「自立すれど、孤立せず。」これが合言葉になろうかと思っております。

特に活動の中におきましては、シニアの社会参加を応援しよう。我々がシニアですから、ぜひそういう場を持っていこうということで、事業の1つに、講座事業があります。講座事業を一部御紹介できたらと思っております。

講座といっても、シニアの方を対象にしておりますから、健康の維持に繋がるもの、友達づくりや、先程来出ておりますが、コミュニケーションづくりに繋がるもの、または自分達の第二といたしますか、新しい生きがいを見つけようではないかということで、講座が繋がっていけば良いということで、活動をしております。

一部活動の紹介をしますと、一番長く、発足時より続いているのが、市民パソコン活用講座ではないかと思っております。シニアの方は、やはりIT弱者と言いますか、そういう機会に恵まれなかった、あるいはそういう機会がなかったということで、現実には避けられないのです。ITへの接触、この場を多く持とうということで、長く続けております。

講座は、先程のシニアを対象にしたもの、NPOを対象にしたもの、例えばNPOさんから要望がありまして、ぜひ会計ソフト、会計の支援をしてもらえないかというお言葉もありまして、我々で独自開発した、今、支援人材講座も長く続けております。その他、もろもろの講座を通じて、皆様との交流を深めておりますし、また、皆さんの繋がりのおかげに

なればと思っております。

近々では、9月と11月に要望の高かった、シニアを対象にしたスマホ講座を開きました。9月、11月と2回ほど実施しました。大変盛況でした。定員は、2回の定員で40名でした。だけれども、お問い合わせいただいた数は、どれぐらいだと思いますか。120名ものお電話をいただきました。すなわち3倍なのです。3倍の競争に勝った方だけが、受講できたということになるわけです。

この開催においては、シニアの方からのニーズは高かったのですが、パソコンを含め、タブレットを含め、あるいはスマホを含め、機材が要ということなのです。機材を私共でそろえることはできません。工夫を凝らして、講座をやっています。あるいは公共の場を借りてやっております。スマホも、そういう形がありましたので、なかなか対応できなかったのですが、渡りに船で、NTTさんと連携することができまして、NTTさんと一緒にこの講座を2回ほど実施しました。

皆さん、スマホはどうでしょうか。今、こちらに御参加の皆さんで、スマホを使っている方、お手を挙げてくれますか。ありがとうございます。スマホは、新しい言葉のように思うわけですが、決してそうではありません。これから高齢社会ですが、日常生活に必要な道具になっていっているでしょう。買い物ができるとか、あるいは防災の情報が入ってくるとか、あるいは遠くにおる子供さんと、スマホを通じて顔を見てお話ができるとか、使いこなせば、楽しいことがいっぱいあると思うのですが、なかなか場が得られないというのが、実情なのではないでしょうか。

これからは、高齢化の社会の中で、シニアの方が自立していくということは、非常に大事になっていくのですけれども、もう一つは、自立して、周りの人達、地域と繋がっていくことが、また重要ではないかと思っております。たかが講座ということになりますが、その講座がそういう役割を果たしてくれれば、幸いだと思っております。

また、スマホについては、来年度、ぜひ回数を多くして、シニアの手によってといただきますか、我々の自前で、シニアの皆さんにゆっくりと、丁寧に、そういう場が持てたらと思っております。また徳島新聞の「情報とくしま」での発信になりますけれども、呼びかけて、御利用していただけたらと思っております。

今日は、簡単な講座の案内になりましたが、ぜひこういう機会を持ちまして、皆様とつながりができることを期待しております。どうもありがとうございました。（拍手）

○田尻氏 仁尾さん、どうもありがとうございます。

すごい時代になってきました。まさに今日のテーマである共助、地域におけるお互いが助け合っという意味では、リタイアした人達が、もう少し年をとった人達に対して、情報に遅れがないように教えていくということですね。

○仁尾氏 そうです。

○田尻氏 過疎が進んだり、地域にお店が無くなったり、今回、東日本などでも、お店がなくなったりということで、iPadを全町民に配ったり、高齢者に配って、それで連絡をし

合うということをやっているところもあります。福島から避難しているときにも、配っているということもあります。1つお聞きしたいのですが、そういうものは、仁尾さんがすごく得意なのですか。それとも、メンバーの中に、そういうことに得意な人がいらっしゃるのですか。

○仁尾氏 ありがとうございます。

私は37年間企業に勤めまして、リタイアしたわけですが、アナログ人間でして、あと何年間というときに、自分の部屋にもパソコンがきましたが、パソコンでの資料づくりは、部下がしてくれるものだとということで、私は出てきたものを見るぐらいでした。

だけれども、ここで皆さんにお知らせしたいのは、こんなアナログ人間でも、その環境に入れば、スキルを持っている人、あるいは周囲の世界にスキルを持っている人などが結構おりましたので、本当に幸せでした。

○田尻氏 得意な人を巻き込んできたのですか。

○仁尾氏 友を呼ぶという形でありまして、そこで開発されるのではなかろうかと思いません。したがって、NPOさんから問題提起がありました、NPOの会計支援、いわゆるソフト開発は、そういう背景があって、我々で独自開発ができたように思います。

○田尻氏 まさに場所をつくったことによって、色んな人が集まってきたという意味では、3つの柱として言われた、場所づくり、仕事づくり、ネットワークというところに、繋がってきたということですね。

○仁尾氏 そうです。

○田尻氏 どうもありがとうございます。

それでは、時間の関係で、次にいかせていただきます。きのこハウスさんです。よろしくお願ひいたします。

○横田氏 NPO法人きのこハウスの理事長をしております、横田と申します。

今日は、7分という持ち時間の中で、たくさんのお話したいと思っておりますので、ちょっと早口になるかと思うのですが、よろしくお願ひします。

NPO法人は、20種類の活動分野があるのですが、3つの事業をしております。保健・医療または福祉の増進を図る活動、子供の健全育成を図る活動、職業能力の開発または雇用機会の拡充を支援する活動、こういうことをやっております。

中身は、県の認可をいただいて、就労継続支援のB型と就労移行の2つの事業をしております。

今回のキーワードの1つ目が、きのこハウスは、障害のある人が働く場所ですということで、支援学校の卒業生とか、一旦就職をしてみたけれども、つまずいて、またきのこハウスに来られる方もおります。

2つ目のキーワードは、きのこハウスは、障害があっても就職を目指すということです。支援学校の卒業生のうち、就職できるのは20~25%ぐらいで、あとの約8割の人が、福祉的就労ということで、作業所に来られます。障害の程度が軽い方も結構おられますので、

そういう方は、就職を目指していかなければいかぬということで、我々のところは、社会人のマナーを身につけて、就職に再チャレンジするというので、職場定着ができなかった人も、またきのこハウスに来て、再び就職を目指すという、そういう活動です。

左の方は、40歳半ばぐらいなのですが、今年の3月に就職ができました。

右側の赤い服を着た方は、4月に支援学校を卒業して、わずか8カ月ぐらいの訓練で、12月1日から一般就労ができました。激励をしているところです。

3つ目のキーワードとして、障害のある人が働く場所がこの地域にある。

地域の人との交流ということで、きのこ祭りということで、地域の人達に来ていただいて、私達が当初からしております、シイタケの販売をして、安くて新鮮ということで、直売方式もあって、地域の人達にたくさん買いに来ていただいております。

もう一つのキーワードは、障害のある人の働く場所が、この地域にあるということで、畑が広がる穀倉地帯でありまして、近くの専業農家5軒と協働で野菜の袋詰め作業をしております。右の上の写真です。地域の方々が季節の野菜をどんどん持ち込んでいらっしゃいますが、それを袋詰めして、コーティングしているということです。

左側ですけれども、他団体とか、特に県の方が来られます。その方が帰ってから、また何日かして、ボランティアに来てくれたり、色んな指導をしてくれたりということがあって、そういうことも役に立っております。

もう一つ、障害のある人の働く場所が、この地域にあるということなのですが、子供の健全育成を図る事業ということで、地元の学校との交流を続けております。特に地元の小学校とは、14年前から交流をしております、ノーマライゼーションとか、そういうことを学んで帰っております。帰ってから、発表会がありまして、その発表会にも招待していただいて、職員がその発表会を聞きに行くこともしております。

中学生になると、職場体験学習みたいな事業をやりまして、より高度なノーマライゼーションの話などもすることができます。

高校生は、近くにある支援学校から、就職を控えた生徒さんの職場体験実習ということで、地域の学校との連携というか、交流もしております。

最後に障害のある人が、自立してこの地域で生活することを、これからも支援していきたいということなのですが、当初からしておりますシイタケとか、重度の人の内職的なものから、ビニールハウス内の農業とか、先程の専業農家さんからの委託作業とか、サツマイモを収穫して干しイモをつくったり、サツマイモをたくさんつくっていますので、これからサツマイモの六次産業化を考えたり、夏にはスイカをつくったり、シイタケの六次産業化でコロッケをつくったり、クッキーをつくったり、色々なことをしております。仕事の中で、障害のある方が地域で自立していくためには、給料もたくさん払わなければいけないということです。

残念ながら、全国的に見ても、障害年金と合わせても、200万円以下の方が99%という数字がアンケートで出ています。徳島県も1位、2位を争う高賃金県みたいですがけれども、

月2万円程度の工賃になっております。これでは現実的に生活できないので、私達は障害年金と合わせて10万円を目標にして、報酬を払っております。

地域の方々との協力とか、地域とどう付き合っていくか、地域の人達にどう支援してもらっていくか、その中で、色んな仕事に挑戦して、工賃を上げていきたいということで、今、そういう支援を行っております。

以上でございます。どうもありがとうございます。（拍手）

○田尻氏 横田さん、どうもありがとうございます。

すごいですね。月2万円の工賃というのは、本当に高くて、1万2,000から1万3,000円が全国平均でしょう。

○横田氏 全国平均は1万4,400円です。徳島は、今、第1位を福井県と争ってしまして、何と2万円に乗りました。順位はわかりませんが、そんな数字で、これは決して高いわけではありません。これは低い金額です。

○田尻氏 幾つかお聞きしたいのですけれども、組織名がきのこハウスなのですが、なぜこれはキノコなのか。

○横田氏 設立当初からシイタケをつくっているのです。これが主力製品で、ずっとシイタケに関わって、利用者の方がシイタケをつくっております。

○田尻氏 シイタケづくりという一種の農作業を通して、それをやっていたから、近くの農家さんから協力してくれという話があったのですか。それとも、団体からお願いしたのですか。

○横田氏 色んなことをやらないと、利用者とその工賃が入らないというところであるので、こんなことをどうですかと、紹介していただければ、それに組み込んでやっていくということで、障害のある人が色んな仕事に就くためには、色んな仕事があったほうが、選択肢があって良いと思います。

○田尻氏 こういう聞き方が適切かどうかかわからないのですけれども、受け入れ農家さんの抵抗感、学校はノーマライゼーションの勉強だからということで、教育の一環ですけれども、農家さんの場合は、そういう抵抗感はなかったのですか。

○横田氏 農家は、たくさん農作物ができるけれども、シールをはったり、袋詰めして出すこと自体に、物すごく手間がかかるので、そのところは、作業所があれば、非常に助かっているということで、たくさん仕事はあるのですが、うちの能力からいくと、これだけという感じでやっております。

○田尻氏 そういう様々な場所での経験から、先程、言われていた就労支援といいますか、移行というのが、結構早いペースでいっているということですね。

○横田氏 そうですね。施設外就労と言いまして、農家に行って、農家と一緒に仕事をしたり、また、近くの工場とか、そういうところがあれば、そちらに就労体験みたいな形、施設外就労みたいな形の中で、就職が進んでいるケースもあります。

○田尻氏 これからの地域を見ていったときに、耕作放棄地がどんどん増えていく、農家

の高年齢化が進んでいく、そして、手間だけが増えていって、なかなかできないという意味では、新たな関係づくりを通して、農家の人も助かり、就労体験することが、人とのコミュニケーションづくりができることが、就労に繋がっていくという、非常に良い循環の仕組みをつくられていると思いました。これもまさに共助の仕組みの1つだと思います。

どうもありがとうございます。

○横田氏 ありがとうございます。（拍手）

○田尻氏 すごく緊張されているのですが、佐々木さん、余り緊張されなくて良いです。NPO法人マミーズの佐々木さんです。よろしくお願いします。

○佐々木氏 NPO法人マミーズの代表をしております、佐々木と申します。よろしくお願いします。

本業は英会話の講師をしているのですが、塾のようなものなので、大体夜働いています。私が働いている間は、私の母が子供達を見てくれているのですが、もし母が病気になったりしたら、どうなるのだろかということも、もともと話しておいて、ファミサポがあったら良いという話になって、ちょうどそのときに、新聞でNPO講座を南部ですというのを見て、応募しました。

そこで、設備とか、運営とか、NPOのやり方などを勉強して、NPOを設立したのですが、念願がかないません、今年の4月、町からファミリーサポートの委託を受けました。ファミリーサポートをNPOがやっているのは、県下で唯一私どものNPO法人だけです。今年の8月から保険にも入りまして、本格的にファミリーサポートがスタートいたしました。また、アドバイザーとして、町内の住民を雇用することもできました。

現在、ファミリーサポート事業以外には、国際交流とか、町内のイベント時の託児などを行っているのですが、託児をしているメンバーも、現役子育て中のママがほとんどで、託児をしながら、0歳児の子供を連れて、自分達の子供も一緒に託児をしております。

私も子供が小さかったときは、金銭的にも苦しかったのですが、1歳や2歳の子供を置いて、フルで働くという気持ちにはならず、下の子が3歳になるのを待って、仕事に復帰しました。現在、託児で来ているママ達も、金銭的に厳しいところがあって、私共がしているイベントの託児を手伝ってくれているのですが、不定期だし、金額的にもすごく少ないのですが、子供のお菓子が買えるとか、やっと髪を切りに行けると言ってくれて、ママ友達もすごく喜んでくれています。子育て中は、どっぷりと子供に関わりたいたいのだけでも、多少のお金はほしいという思いがあるみたいで、私もそうだったのですが、そう言ってくれるママ達の力に、少しはなっていると思っています。

那賀町のイベントで、こういうふうに子育て中のママが参加できて、那賀町の子供達の子育てにもかかわってくれるママ友達ももっと増やしていきたいし、ちょっとでもママ友達が暮らしやすい町になったらいいと思って、日々頑張っております。よろしくお願いします。（拍手）

○田尻氏 佐々木さん、ありがとうございました。

NPOはいつできたのですか。

○佐々木氏 5年ぐらい前です。

○田尻氏 5年ぐらい前につくられて、今回、ファミサポの事業をとられるまでの4年間、この間というのは、何をされていたのですか。

○佐々木氏 自分達のNPOで、ファミサポ事業をしたりしていました。

○田尻氏 毎日ですか。

○佐々木氏 那賀町自体が小さいので、それほど需要もないのですけれども、そのときは、塾の送迎などがあったので、年間で利用回数が30回ぐらいはあったと思います。

○田尻氏 それを手伝っているお母さん達というのは、どういうふうに集められたのですか。

○佐々木氏 そのときは、下の子が幼稚園だったので、そのときのママ友だったり、頑張っていてやっていくうちに、年配の方達も認めてくれて、今はお手伝いしてくれています。

○田尻氏 地域で色々と聞いていると、年上のお母さん達の世代と若いお母さんで子育ての仕方が違う、意見が合わないから一緒にやりたくないという、若いお母さん達が結構いたりするのですけれども、どうですか。

○佐々木氏 私達のファミサポの会員になるためには、講習をしないといけないのですけれども、そこで一定の講習をしたりしています。先週の金曜日には、子育てを依頼してくる依頼会員のお母さんと、子守をしてくれる提供会員のメンバーの交流会を開催しましたが、そこで色々と話をしたり、交わって、今の子育ての環境はこうだとか、昔はこうだったという話し合いをしたりして、ギャップを勉強する時間も持ったりしています。

○田尻氏 その辺の世代間の交流もうまく行って、地域皆で子育てをしていこうという機運が、少しずつ出てきたという感じですか。

○佐々木氏 出てきていると思います。

○田尻氏 それを認められて、制度上で言うファミサポ事業なのですけれども、やはり制度でできているものと、民間で自由にやっているものは、ちょっと違いがあって、制度だと、先程言われたように、研修を受けないといけないとか、これだけはやりなさいということがあります。その辺はどのように埋めておられるのでしょうか。

○佐々木氏 色々と大変なこともあるのですけれども、委託を受けることになったので、前は会員が保険料を出したりしなければいけなかったのですが、保険料などは、町で出してきておりますし、委託ということで、人の見る目もちょっと変わったと思います。

○田尻氏 制度でやり出すと、会計なども大変ですね。ばっちりですか。

○佐々木氏 アドバイザーの方がすごく頑張ってくれています。

○田尻氏 ぜひ仁尾さんと繋がっていただいて、会計研修をやっていただく。こういうところも、共助で助け合っていくことが、必要なのではないかと思います。

どうもありがとうございました。（拍手）

それでは、次、こやだいらの阿部さん、よろしくお願いします。

○阿部氏 私は、NPO法人こやだいら理事長の阿部義則と申します。

資料は7ページと8ページ、もう一つ、今日の資料に入っておるところで、参考にしていただければいいと思っています。

皆さん方にお渡ししておる資料と、私が説明する資料は、時間の関係で濃縮をしておりますので、早口になりますが、よろしくお願いいたします。

こやだいらというのは、どんなところか、わからない人もおるかもわかりませんが、本当に山の中で、昭和30年は4,500人いたのですけれども、今は700人超になっております。10分の1ということです。

地域で安全・安心に、快適に暮らすということですが、先程も講師の先生がお話をしておりましたので、一緒になると思うのですが、人と目を合わせて話をするという、挨拶とか、おはようございますとか、こんにちはということが、地域では一番大事なことになるだろう。これはどういうことかと言いますと、声とか、顔でも、その人の健康がわかるということです。特に高齢化が進んでおりますので、そんな対話も続けながら、必要なことであろうと思います。

元気な人は良いのですけれども、悪い人は、1人では全く生きていけないという思いを思っています。どなたでも、最後には色々な支援を受けることになるかも知れないし、いつどこで支援を受けるかわかりません。人と人が繋がって、伝統文化とか、色々な事業、地域の取組などができていくということを、私は実感しております。

地域で暮らすには、役割分担としまして、地域で暮らす一人一人に役割があるということです。赤ちゃんから高齢者の人まで、そこにおる以上は、役割がありますということも認識してほしいと思います。

それと、健康と予防というものがありますけれども、私はまだないのですが、色々と経験したことで、食生活は健康を管理していくことだと思います。食生活を理解していくということです。最近もやっておりますけれども、私らの時代というのは、とりあえず腹いっぱい食べるという生活だったので、そういうことではなくて、色々なことを勉強していくということです。

それから、自分で守り、家族を守り、地域を守っていくということは、地域の人がやっていくことであると思います。色んなところで、支援も必要であろうと思いますけれども、まず自分で自分を守りということが、大事だと思います。

自分に合った運動や農業、例えば料理をするということです。これは色々な役割があって、これをやることによって、自分の管理ができていくと思います。

もう一つ、定期的に健診を受けるということです。私らの地域でもやっているのですけれども、大きな病気にならず、薬程度で生活ができるというのが、一番良いと思います。車で言いますと、6年乗りますと、タイヤも変えなければいけないし、ワイパーも変えなければいけないし、ガソリンは当然入れるのですけれども、エンジン部分がやられますと、

おしまいになるので、常にきちっと健診を受けたりしていくことも大事だと思います。

先程、仁尾さんの説明もあったと思うのですが、メディアとうまく付き合っていくことも大事だと思います。

もう一つ、裏を返すと、子供さん達は、今、顔を合わせる機会が少ない、会話も少ないというイメージを持っております。できるだけ話し合いをしていくことも大事だと思います。

次の画面を見ていただくと、真ん中に高齢者の方がいます。これは花見になるのですが、こういったことをどんどん進めていくことになると思います。これから支援が始まりまして、輸送、企業の支援、地域づくり、防災活動につながっていきます。

次に、今、人口は743名ですが、高齢者の方が424名おります。資料から5～6人変わっております。高齢化率は57%です。こういったところが、課題がいっぱい出てきます。

色んな課題を解決していくことになりまして、何をしていたらいいかということなのですが、例えばNPOを立ち上げたきっかけというのは、旧木屋平役場の時代に、タクシーを委託して、輸送しておりました。買い物などをしておりました。それが合併しまして、なくなりまして、これが大変だということで、今、取り組んでいるのが、NPO法人の取り組みでございます。

これは、当時、今日おいでの皆さん方、スタッフの皆さん方に色々と御指導いただいて、作り上げたものが、私どものNPO法人の組織のやり方とか、色々なノウハウが入っております。

今、NPOの取組というのは、10名の理事がおりまして、監事2名と、7つの班があります。そういった班で行っております。詳しくは、後程出てきます。

1番目に、過疎地有償輸送事業というものがございます。これは高齢者だけではないのですけれども、会員さんを送迎する。買い物、診療所、地域、地域以外にも出ていくということで、1キロ130円でございます。車は、運転手の車があります。今、45人運転手がございます。その方の車を借りて、NPOと契約をして、今、動いております。1キロが130円で、4人乗りますと、4分の1になるような仕組みづくりをしております。

次に高齢者の生活支援事業なのですが、高齢化になりますと、ひとり暮らしの方が多くなってきます。そんな中で、悩みごとがいっぱい出てきます。それを相談していくということですが。例えば最近では、マイナンバーカードの封書を開けたけれども、わかりませんとか、そういったことも含めまして、これから先のこともあります。生活の中で困っていることを相談しながら、解決していくということです。

3番目に、農林業作業支援です。高齢者の方は、特に農業が好きなので、それをできるだけ続けていってもらえるようにしておりますが、その中で、力仕事とか、足が痛いとか、腰が痛いというときには、作業できない仕事があります。それを支援しています。料金としましたら、有償で1時間900円から1,300円までとなっております。

4番目ですが、環境整備事業で、御存じかと思うのですが、穴吹川というのは、木屋平

からも発信しておりまして、19年連続になるかもしれませんが、四国一、全国でも2番目になりますが、きれいな川です。これを管理していくということで、皆さん方、頑張っておられます。これは上流の役目として、行っております。

5番目といたしましては、防災活動事業です。これは防災訓練、地震災害のときに、どのようにして避難するか。高齢者の方がどのようにして避難したら良いかという、自治会でちゃんと送り込みをするまで、避難所までできるようにしております。

6番目としまして、自然環境保護事業ということで、地域に希少な動植物があります。それを管理していく、また、増殖も含めて行っております。

7番目としまして、地域づくりということで、地域の伝統文化を継承していくことが、一番の目的にしております。文化的なものも、どんどん次の世代に継承していくということでございます。

次にネットワーク協議会というものをつくりまして、お二人のお年寄り、これだけの方が地域でサポーターをしております。どこかでは網がかかっておりますので、わかるような形になっています。例えば市役所の職員の方が現場に行きますと、ちょっと寄っていけと言われる。こんなことも地域全体で取り組んでおります。高齢者の方も、地域の料理をつくって、それが色んな形で、健康になったり、例えば認知症にかかりづらいということです。やる気があるという高齢者です。

もう終わりになりますけれども、こういったきれいな川とか、色んな景色を地域で守っていくということを基本にしておりますが、私共のNPOの言葉としましては「団結ときずなで地域を支え合う」ということを目的に、皆で頑張っております。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

○田尻氏 阿部さん、どうもありがとうございました。

多岐にわたる事業で、これは休む暇がないでしょう。

○阿部氏 365日休みはないです。

○阿部氏 高齢者の方だと、頭が痛いので、診療所へ行きたいという話もあります。そのときに対応することになります。

○田尻氏 人口が743名と言われていて、会員が341名、半分ぐらいの人が会員です。これはどういう人が会員なのですか。

○阿部氏 1年間の会費が1,000円です。それで利用できます。会員さんというのは、元気な人も、お年寄りも入っております。元気な人は支えるという気持ちです。

○田尻氏 743人で、341人が会員ということは、世帯にしたら、ほとんどの世帯の人が入っているということですか。

○阿部氏 はい。世帯単位で1,000円ということではなくて、一人一人が1,000円になるので、5人いたら5,000円ということです。それはお互いに競争してもらって、私も、私もとという仕組みと言ったら、怒られるのですけれども、そんな感じです。

○田尻氏 これは全員が入ったとしても、74万円にしかありません。これで活動を維持し

ていけるというのは、有償のサービスが幾つかあるわけですか。

○阿部氏 そうです。例えば運送の収入、生活支援の収入、農作業の収入という形でしております。自ら稼いで、自ら運営していくという方法です。

○田尻氏 それは何か理由があるのですか。

○阿部氏 理由は、補助金をくれないということです。補助金をもらっておる方には、失礼に当たるかもわからないけれども、補助金をもらってやりますと、気持ちは正義の世界に入っていきます。我々は、梅干しなどで生活していこうということで、一番上に上がったところでやりますと、下へなかなか下りづらいところがあるので、そういう気持ちです。

○田尻氏 民間でやれる範囲でやっていこう、地域でやっていきたいと思いますということですね。

○阿部氏 そうです。

○田尻氏 お話を聞いていると、今、国が進めようとしている地域包括ケアそもそものが、ここに存在する。仕組みをつくらなくても、この町にはあるという感じがしました。

○阿部氏 そうです。私どもが9年前、平成19年にしたときには、色んな支援とか、そんな話は全くなかった時代だったと思います。民間が人を乗せて、移動していくというのも、一般の組織ではなかった時代だと思います。

○田尻氏 ありがとうございます。阿部さん、これは地域包括ケアの売りとして、全国から見学に来てもらって、見学費用を取ったら、大分収益が上がるのではないかと思います。

○阿部氏 できるだけ、お互いに、そういうところは、やりづらいところもあるので、頑張ります。

○田尻氏 ありがとうございます。（拍手）

お待たせしました。新開さん、よろしくお願いします。

○新開氏 徳島共生塾一步会は、来年で、設立20年の節目を迎えるNPO法人です。

活動の基本は、地域の諸団体などとの連携のほか、行政との協働による地域の環境活動で、今までは88カ所、遍路道の美化活動を柱に進めてまいりましたが、地域の諸団体と連携した課題取組にチャレンジしております。

遍路道の美化活動は、徳島で始めて四国四県に広がり、10年かかりましたけれども、四県の25地点で大掛かりな作業を展開し、県下では、平成16年に阿南市福井町から始めて、4年前の美波町由岐坂峠の遍路道で、大方片がつかしました。

10年の歳月を要しましたが、何らかの形で参加いただいた方々は約4,000人、撤去したごみは700トンという、大変膨大な量になりました。

遍路道のクリーンアップ作戦の成果として、道がきれいになった、本来の遍路道に戻った、遍路道への愛着が湧いたということはもちろんですが、それにも増して、地域の結束とか、地域の一体感の強化に繋がったと思います。それに、地域団体や行政との絆が深まったと思います。それが何よりの成果だと、私は思います。

これからは、深めた絆の地域の団体とか、事業所、大学との連携による、地域課題の解決に取り組んでおります。

この写真は、平成25年、ウミガメの上陸を守れという、蒲生田海岸のクリーンアップ作戦で、地域の諸団体の支援をいたしました。

翌26年も同じく、阿南市の諸団体の支援をしてまいりました。

隣町の大潟町の海岸では、たくさんごみがあったので、町内を挙げての美化作業をしましたがけれども、このときも、町内会の側面的なサポートをいたしました。町内会総出の作業を支援したわけであります。

それから、阿南市の加茂谷とか、新野の団体の支援で、遍路道の整備作業にも関わっております。

また、徳島市内の郊外には、あずり峠という山の遍路道がありますが、ここは、毎年、草刈りをしなければなりません。毎年、地元の町内会有志の応援をしております。

また、文理大学では、地域貢献活動として、3年生と教職員約100名が、毎年、眉山の遍路道のクリーンチャレンジとか、クリーンアップ作戦を実施しておりますが、学生が自主的にやることなので、我々は側面サポートをさせていただいております。

このように、我々は他団体との連携とか、他団体を支えることにより、他団体から多くを学ばせていただきましたし、実は自分達も支えられてきたことに気が付きました。

今、一番力を入れておりますのは、地域の宝を世界の宝にしようという、四国遍路の世界遺産に向けた活動であります。1つは、遍路道の整備・保全であり、県民が遍路道を知り親しむ活動であり、外国人への情報発信とか、外国人のお遍路体験であります。また、お接待活動の盛り上げ、推進も進めております。

徳島ユネスコ協会、徳島経済同友会、アサヒビール株式会社、徳島文理大学、徳島大学、あいおいニッセイ同和損保といった、団体や事業所等との連携、講演、あるいは資金支援等をいただいて、この課題に取り組んでおります。

遍路道を県民が体験する活動は、一昨年から毎年実施しております。これは鶴林寺のウォーキングの写真であります。県外からも多くの方に参加いただきました。

四国遍路の外国への情報発信も欠かせません。昨年からは県内の外国人を対象に、遍路道のウォーキングや遍路文化の勉強の講座を始めております。

この写真は、つい2カ月前の鶴林寺の県内外国人のウォーキングの写真であり、徳島新聞に大きく載ったものであります。

また、色んな国からのお遍路が増えておりまして、いずれの国からのお遍路さんも、優しく差別なく迎えようということで、外国人を迎えるおもてなし実践講座を昨年からは初めて、県下の6地区の会場で実施いたしました。

このように、我々は地域の宝、地域の環境も、地域の文化も、地域の皆で支えて、皆で生かすということで、我々はNPOとしての役割に努力したいと思います。

以上、御清聴ありがとうございました。（拍手）

○田尻氏 新開さん、どうもありがとうございました。

新開さん、すごいですね。20年ぐらい前からお付き合いがあって、そのときは、遍路道を掃除すると言っていたのが、世界遺産の登録を目指している。この展開はすごいと思うのですが、そういうアイデアというのは、いつもどうされているのですか。

○新開氏 アイデアということではなくて、遍路道や県内のたくさんのお遍路さんから、色んなクレームが来たり、問題があることは、必ず色んな形で上がってきますので、それに少しずつ対応するということだと思います。

○田尻氏 それは新開さん1人で考えておられるのですか。それとも一步会の中ですか。

○新開氏 皆で考えています。

○田尻氏 一步会の中で、会議などをやられているのですか。どういうふうにして、次の色んなアイデアが出てくるのですか。これから団体でやろうという人は、多分そういうことに関心があるのではないかと思います。

○新開氏 組織の運営です。役員と相談して、色んな団体関わっておるので、今日もこの会場に来ておられます。文理大学の松村先生、徳島大学の三隅先生、たくさんの方に御支援、アドバイスをいただきまして、一步会だけで考えるのではなくて、周りの団体との相談で進めております。

○田尻氏 まさにそういう人の繋がりが広がっていくことによって、中身の判断とか、地域的展開も色んな地域でやられていますけれども、色んな地域で、地元の人に参加してもらうことを進めていくには、どういうやり方があるのですか。例えば行政に行くのか、自治会に行くのか、学校に行くのか、それは色々なやり方があるかもしれませんが、効果的なやり方をぜひ教えていただきたいと思います。

○新開氏 無理に押しかけません。

○田尻氏 無理に押しかけないのですか。

○新開氏 絶対に押しかけません。それで嫌われた事例もあります。必ず会員を通じて、地元の人にコンタクトをとって、了解をとって、要望されれば入れる。地域に我々が無理やり踏み込まないということも、1つのポイントだと思います。

○田尻氏 それは過去の経験の中で、ここが汚いから掃除しろと言っていっても、なかなか地元の人には起きてこないけれども、地元の人が主体的にそういうことをやろうというところに、うまく寄り添っていくというやり方で、ここまでやられたのですね。

○新開氏 はい。

○田尻氏 ありがとうございます。

そろそろ時間なのですけれども、たくさんキーワードが出てきたと思います。

5つの発表から出てきた中で、かなり意識してお話いただいた部分もあるのかもしれないのですが、1つ、居場所よりも出番づくりを皆さんすごくうまくやられている。今までの日本の制度・政策は、福祉などは特にそうですけれども、高齢者の人で、介護が必要になったから、施設に入れる、子供の遊ぶところがなくなったから、児童館に入れるという、

箱物なり、場所をつくって、そこに収容して行って、問題ないようにしていこうという、居場所づくりはいっぱいしてきたのですけれども、その結果、地域的な繋がりが無くなった。

以前、地方都市に行ったときに、子供は学校が終われば、すぐに児童館に行く。二世帯で住んでいるのに、おじいちゃん、おばあちゃんは老人クラブに行く。家が留守になってしまう。制度でつくったはずのものが、いつの間にか、留守家庭をつくってしまっているという課題があって、これからどうするのかと、お話されていましたが、そういう意味では、どの団体もうまい出番のつくり方、得意なものを使うのか、自分が困っているとか、課題を抱えているので、何とかできないかというお母さん達の思いとか、出番づくりをこれから地域の中でどうしていくのかということは、非常に重要だと思いました。

そして、それが皆さんから出てくれば、今、新開さんも言われたように、どう繋がっていくのか。お互いがお互いの得意分野を使いながらやっていくことによって、地域が輝き、地域が元気になっていく。まさに阿部さんのところなどは、地域ぐるみで社会課題を解決していますから、行政はそこにお金を出そうとは思いません。お金を出さなくても、できるのですからね。そういう地域をどういうふうにつくっていくのかということが、これからのヒントになると思いました。

最後でございます。私のまとめはこれぐらいにして、同じような活動を地域でされている方に、今日、たくさん御参加いただいていますので、皆さん方から一言メッセージを出していただいて、終わりたいと思います。仁尾さんからでよろしいでしょうか。みんなの励ましになるようなことを、ぜひよろしく願います。

○仁尾氏 難しいことはありませんが、合言葉にしている、「自立すれど、孤立せず」というところにこだわりたいと思います。自立は大切ですが、孤立とは、いわば皆さんと繋がっていきましようという共助です。いわゆる自立アンド共助というメッセージを送りたいと思います。一緒に頑張りましょう。（拍手）

○田尻氏 どうもありがとうございました。

横田さん、よろしく願います。

○横田氏 利用者の方、障害のある方の工賃を上げるためには、内職的なことでは、なかなか工賃は上がりません。経済的に自立できません。色んな知恵を出し合いながら、収益の高い仕事をしたいと思っていますが、ここが作業所の大きな課題でありまして、皆さん方、周りの方から色んなヒントをいただいて、こんなことをしようということで、取り組んでおります。ぜひそういうヒントがありましたら、また教えていただければ、そういう方向でやっていきたいと思っています。よろしく願います。（拍手）

○田尻氏 どうもありがとうございました。

佐々木さん、よろしく願います。

○佐々木氏 NPO法人として、設立して、時間も経っていないので、皆さんに送る言葉はないのですけれども、皆さんの御協力が一つでもあったらと思います。よろしく願います。

す。（拍手）

○田尻氏 どうもありがとうございました。

阿部さん、よろしく申し上げます。

○阿部氏 挨拶で始まって、挨拶で終わることにしていきたいと思います。そして、地域というのは、繋がっていくというか、一人一人理解し合っていくと、色んな方向でうまく回っていく。一回りするということを、大事にしていきたいと思います。人を大事にしていきたいと思います。

以上です。（拍手）

○田尻氏 どうもありがとうございました。

新開さん、よろしく申し上げます。

○新開氏 私は連携です。連携活動をしていくと、いつ来るかわからない大規模災害、そういったものに対する備えができると思います。これからも自分のところだけでやるのではなくて、色んなセクターとの連携を最優先に考えていこうと思います。（拍手）

○田尻氏 どうもありがとうございました。

まとめますけれども、会場の皆さんには、今の5つの事例を聞いていただきながら、共助とは何なのか、地域とは何なのかということを引き続き考えていただきながら、後半の説明等々を聞いていただければと思います。

拙い進行で、ちょっと押ししましたけれども、5人の素晴らしい事例を聞かせていただきました。5人の皆さんに拍手をよろしくお願ひいたします。（拍手）

それでは、これでパネルディスカッションを終わらせていただきます。

○司会 ありがとうございました。

田尻様、そして、各パネリストの皆様にも、もう一度、大きな拍手をお送りいただきたいです。ありがとうございました。（拍手）

それでは、これより、田尻様、各パネリストの皆様には、お席へお着き合わせをいただきたいです。

それでは、引き続きまして、福田紘一郎内閣府参事官付政策企画専門職より、共助社会づくり懇談会の報告をお願いしたいです。福田様、どうぞよろしくお願ひいたします。

○福田政策企画専門職 皆さん、こんにちは。内閣府の福田と申します。

私の資料は、表題は「共助社会づくりの推進について～新たな『つながり』の構築を目指して～（概要）」という、A3の資料を出していただければと思います。

私からは、こちらの資料を使って説明をさせていただきたいです。

こちらの資料なのですが、内閣府では、共助社会づくり懇談会という有識者会議を平成25年から開催いたしております。その中で、先程、日本NPOセンターの常務理事を務める田尻委員にお話をさせていただきましたけれども、NPOの方などを初めとして、合計11人の委員の方で、議論をさせていただいております。

平成25年度は、NPOの人材面、資金面、信頼性の向上の3つのテーマについて検討して、課題や政策について報告書をまとめております。

今日は、26年度に議論を行いました有識者会議の中で、「共助社会」という言葉はよく聞くのだけれども、一体どういったものなのか、その目指すべき姿が明確ではないという御指摘がございまして、26年4月から1年をかけて議論を行いまして、共助社会の担い手の取組と課題、さらには目指すべき共助社会の姿について、報告書を取りまとめました。報告書自体は、結構ボリュームがあるのですが、本日はポイントだけ御説明をさせていただきたいと思います。

まずは、様々な課題と書いてございますが、これは人口減少、少子高齢化、地域経済の疲弊、セーフティネットの綻びに対する不安、人間関係や地縁的繋がり希薄化など、こういった数多くの課題が、日本全国各地にあります。

そういった状況でも、持続的・安定的な経済成長に繋げていくためには、全ての人々の間で、危機感を認識・共有した上で、地域の特性に応じた取組を実施していく必要があります。互いに支え合って、多様な主体による有機的な結びつきを構築して、ともに課題を解決していくという、共助の精神が必要不可欠です。

青い枠で囲っておりますけれども、目指すべき共助社会とは、個人の多様な価値観や意思が尊重されながら、新たな繋がり構築され、全員でつくり上げていく社会の実現を目指す必要があると、まず大きく提言をしております。

共助社会の担い手の取組と課題については、8つの主体で、合計で24の課題があると整理をしております。

一番左側の主体として、地域住民ですけれども、こちらは課題を2つ挙げております。1つは、先程からお話がありましたが、地域の課題とか、周りの課題を自分事として捉えることが重要ではないかということで、当事者としての自覚ということで、整理をしております。

二番目の主体として、地縁組織ですけれども、高齢化が進んだり、若い人が自治会などに入らないとか、そういった現状がございまして、課題③として地縁組織の活動内容等を情報発信して、新規会員の獲得をしていく必要があるのではないかとしております。

三番目の主体として、NPO等を挙げており、課題は3つ挙げています。⑤を参考に御説明しますが、ボランティアや寄附の受け入れ状況についての情報発信が課題である。ボランティアや寄附をしたいという人は、今、学生さんなどでも、地域貢献活動をしたいとか、そういう若い人達も出てきております。ただ、どこにボランティアに行けば良いのだろうかとか、例えば寄附をしたいと思っても、どこに寄附をすれば良いのだろうかということがわからないという内閣府の調査結果もございまして、まずはボランティアや寄附の受け入れをしたいと思っているNPO等は、自分の活動について、積極的に情報発信をしていかないと、そういったところの受け皿にはなり得ないということで、⑤の課題を整理しております。

企業を4つ目の主体として挙げておりますけれども、企業自体も地域が疲弊してしまうと、自分達の経営が成り立たなくなってしまうので、中小企業、大企業を含めて、地域を支える担い手として、企業の役割は高まってきている状況にあるということを課題として挙げております。

地域金融機関を6番目の主体として挙げておりますけれども、金融機関とNPO等との情報交換や相互理解を促進していく必要があるのではないかとすることを⑩の課題として挙げております。

7番目の主体は教育機関を挙げておりますけれども、大人になってから、地域貢献活動などを余りしないというのは、子供のときなり、学生時代なりに、そういったことに真面目に向き合う機会が少なかったからではないかということで、⑪で学校教育における社会貢献活動の機会の増加を挙げております。共助の担い手づくりにも繋がっていくのではないかと、整理をしております。

8番目の主体は行政です。そもそも、公助でございますけれども、今は課題が複雑化していきまして、行政単体で何でも解決するということではできない状況になってきておりますので、行政も共助の担い手として、様々なところと連携をしながら、取り組んでいく必要があるということでございます。

こういった課題の解決に取り組んだ上で、目指すべき共助社会の具体的な姿、その実現への道筋ということで、3つの姿と合計で27の道筋として整理しております。

1つ目の目指すべき姿は「つながりの構築」で、内閣府共助社会づくり懇談会では、「共助社会の場」と言っているのですけれども、地域の人が集まって、自分達の周りの課題などについて、共有し、話し合いをする場をそもそもつくらないと、なかなか進まないだろうということで、そういった場をつくっていくのが一番重要であろうということで、道筋の中でも、その手法などについて、提言をしております。

2つ目なのですけれども、「地域の活性化」です。共助によって地域課題を解決することによって、地域は活性化をしていくということでございます。

3つ目の姿としては、「参加の促進」ということで、皆が共助の取組に参加していく。ボランティアや寄附などで参加していく。ボランティアや寄附を拡大していくための道筋や、地域における寄附などの資金循環を広げていくための取組の道筋を提言しております。

報告書は、内閣府のホームページにございますけれども、そちらでは、提言意外に、寄附の集め方の事例、金融機関の事例とか、NPOの事例なども紹介してございますので、そちらもご覧になっていただいて、これからの活動に生かしていただければと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○司会 福田様より説明をいただきました。どうもありがとうございました。

続きまして、徳島県県民環境政策課、北井勢司課長補佐より、徳島県におけるNPO支援施策の説明をさせていただきます。北井様、よろしくお願いたします。

○北井課長補佐 徳島県県民環境政策課の北井でございます。よろしくお願いたします。

それでは「NPOの自立促進に向けて」と題しまして、徳島県の施策を説明いたします。

NPO等、社会貢献活動に取り組んでいる団体等の支援拠点として、マリンピア沖州、徳島県が設置しております、とくしま県民活動プラザについてです。

プラザの支援内容は、大きく4つの柱となっており、1、交流・活動の場の提供、2、社会貢献活動の情報の提供、3、NPO活動の相談・アドバイス支援、4、人材育成の研修講座等の実施です。

NPOの相談窓口として、誰でも利用できますが、社会貢献活動団体として御登録をいただきますと、会議室、研修室の無料貸し出しや、プロジェクター、ハンドマイクなども貸し出しをしており、イベント開催ポスターを印刷できるプリンター等も、安価に利用できることとしております。

2の情報提供では、プラザでは、NPO活動のチラシを配布するパンフレットラックの設置や、プラザのホームページでの情報発信を行っております。画面には、プラザのホームページを映しておりますが、新着情報でイベントの開催告知や、次にホームページにリンクしてあります、この後、説明する、ゆめバンクとくしまのページでは、NPO活動をされている団体に向けての助成金情報として、助成金の情報募集の情報を発信しておりますので、御参考にしていただき、助成金の獲得のため、申請にチャレンジしてみてください。すぐには採択されないかもしれませんが、申請することの経験、何度かチャレンジすることにより、申請作業になれ、申請書を書く能力が確実に向上いたしますので、ぜひ申請申し込みチャレンジしてください。

3、相談・アドバイスですが、画面はプラザのホームページの新着情報の箇所を出しております。ここでプラザの実施事業、登録NPO団体の開催事業などの情報を随時更新しております。

現在、プラザでは、後期のアドバイザー派遣事業の応募を受け付けております。また、NPO、ボランティアお試し体験の募集も随時行っており、情報発信、マッチング支援を行っております。

今年度からは、県の施策として、徳島大学と連携をとり、ボランティアによる単位取得ができる、ボランティアパスポートの制度も開始しており、ボランティア募集では、この制度が適用され、学生ボランティアの方をNPOへ繋げております。この制度により、大学生の参加が期待できますので、今後イベントなどの計画があれば、県民活動プラザに情報発信等について御相談いただければと考えております。

次に人材育成研修を実施しております。NPO運営に必要な労務講座や会計講座、また、活動を広めるための研修を実施しており、活動資金の調達には、支援者の関心を得るための技術も必要であります。そういったことから、資金調達機能強化研修として、11月に日本のファンドレイジングの第一人者である、ファンドレイジング・ラボ代表の徳永氏による講演会の開催や、本県でNPO等に対して助成事業を行っている企業担当者の方々による募集事業の説明会を実施するなど、NPO運営のための人材育成研修を実施しております。

今後におきましても、先程のホームページで公募を行い、参加費はほとんど無料にて、随時実施しておりますので、能力アップや問題解決のきっかけとして、ぜひ参加してください。

次に県民の皆様の支援を集める窓口として、ゆめバンクとくしまを運営しております。ゆめバンクとくしまは、県民や企業等からの志のある人、物、お金の支援をNPO法人等につなぎ、その活動基盤の自立・発展を目的として、平成23年度、徳島県が県民活動プラザに設立したものでございます。

ゆめバンクとくしまは、認定NPO法人とくしま県民活動プラザに行った寄附として、寄附金税額控除の対象となっております。

ゆめバンクとくしまへの寄附について、平成27年度までに、24団体へ助成金を交付するなど、事業実施に活用しております。

寄附金については、いつでもプラザで受け付けておりますので、皆様の社会貢献活動への支援につきまして、今後ともよろしくお願いいたします。

また、プラザでは、認定NPO法人として、寄附金の税額控除団体であり、寄附をしていた方へ税金控除の優遇がされております。この制度により、寄附を集めやすくなっております。

次は認定NPO法人制度を活用し、NPO法人の支援について説明いたします。

認定NPO法人には、4つの税制優遇が与えられております。

1つ目は、個人の寄附金税額控除の対象となり、寄附金の受け入れに優遇されております。

2つ目は、企業からの寄附に対しましても、企業の税金控除額が拡大されます。

3つ目は、相続財産からの寄附について、相続税の優遇がございました。

4つ目は、認定NPO法人自身が法人税の優遇措置の対象法人となるなど、所得税、法人税等、多くの税金控除の制度が整えられ、社会貢献活動の推進をしている制度でございます。

認定NPO法人には、市民からの支援、寄附金の基準がございまして、その基準が高いため、本県では、現在、とくしま県民活動プラザを含む2法人となっております。

税制優遇制度の対象法人、認定NPO法人を増やすため、認定制度に定められております、制度の3になりますが、徳島県では指定NPO法人制度の創設に向け、現在、制度の条例案を12月議会で審議していただいております。

この条例では、認定NPO法人の寄附金基準を大幅に緩和するとともに、ボランティアスタッフの支援等、活動実績を評価した基準としており、指定NPO法人になりますと、認定NPO法人の基準も満たす制度としております。

寄附金基準の緩和では、認定基準と比較いたしまして、経常収入金額の寄附金等収入に占める割合が20%以上を10%以上に、3,000円以上の寄附者100人以上に対し、3,000円以上の寄附者30人以上で、かつ1,000円以上の寄附金の総額15万円以上に緩和し、1,000円以上の寄附者を評価するとともに、認定の寄附金基準の半分と、大幅に緩和いたしました。

また、ボランティアや県民向けのイベント、協働事業など、活動要件を評価することで、NPO法人活動の認知度を高めます。

このように、県では、指定NPO法人制度を通しまして、NPO法人の社会貢献活動の促進、あわせて信頼性の向上を図り、さらには指定から認定NPO法人として、4つの税制優遇措置対象法人へのステップアップを推進してまいります。

終わりとなりますが、県といたしまして、社会貢献活動のさらなる発展を目指し、NPO活動の情報発信、参加促進、寄附文化の醸成を図るとともに、NPO法人の人材育成のための事業を実施することにより、皆が支え合う、ふるさと貢献とくしまの推進を図ってまいりたいと考えております。

以上で、徳島県の施策説明を終わります。御清聴ありがとうございました。（拍手）
○司会 ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の全てのプログラムを終了させていただきました。

なお、本日の資料を入れた封筒の中に、アンケート用紙を同封させていただいております。お帰りの際、受付のアンケート用紙回収箱にお入れくださいますよう、御協力をお願い申し上げます。

また、まなびーあのシールをお忘れの方は、受付でお渡しいたしますので、お申し出ください。

皆様、お忙しい師走の中、長時間にわたる御参加、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

お忘れ物のないように、また、遠方からいらした方もいらっしゃると思います。お気をつけて、お帰りになっていただきたいと思います。

ことしの締めくくりとして、皆さんとのすてきな出会いがあったことに感謝をしながら、来年も皆様お元気で、またお目にかかりたいと思います。今日は、本当にありがとうございました。お疲れ様でございました。ありがとうございました。（拍手）